第47回マーチングバンド全国大会 大会概要

大会名称	第47回マーチングバンド全国大会
大会日程	2019年12月14日 (土) ・15日 (日) 14日 (土) ー小学生の部・中学生の部 15日 (日) ー高等学校の部・一般の部
開催場所	さいたまスーパーアリーナ 〒330-9111 埼玉県さいたま市中央区新都心8番地
主催	一般社団法人日本マーチングバンド協会
特別協賛(予定)	株式会社フォトクリエイト・株式会社ヤマハミュージックジャパン
追	 ○小学生の部 音楽への憧憬を大切にし、マーチングを通して幅広い音楽表現活動を体得するとともに協調性・忍耐力を培う。 ○中学生の部 音楽への憧憬を大切にし、豊かな音楽表現活動を通して協調性・責任感を育みながら生きる力を培う。 ○高等学校の部 音楽表現の可能性を追求し、より高い音楽性や技術を身につけ自主性と創造性を培う。同時に音楽文化の発展と地域社会の活性化に貢献する。 ○一般の部 音楽表現の可能性を追求し、より高い音楽性や技術を身につけ自主性と創造性を培う。同時に音楽文化の発展と地域社会の活性化に貢献する。

日 程

〔1〕参加団体打ち合わせ会議

日 時:2019年11月16日(土)

12:30~ 受 付

13:00~16:00 参加団体打ち合わせ会議

場 所: HULIC CONFERENCE [ヒューリック カンファレンス] Room1

〒111-0053 東京都台東区浅草橋 1-22-16 ヒューリック浅草橋ビル

※会議出席者は大会当日構成メンバーと同行する団体責任者または登録引率者として登録した者1名とする。

〔2〕大会日程(予定)

※時間は、参加団体数により変動することがありますのでご了承下さい。

 9:20
 9:50

 期
 開

 会
 小学生の部・中学生の部

 場
 式

〇12月14日(土)

○12月15日(目)

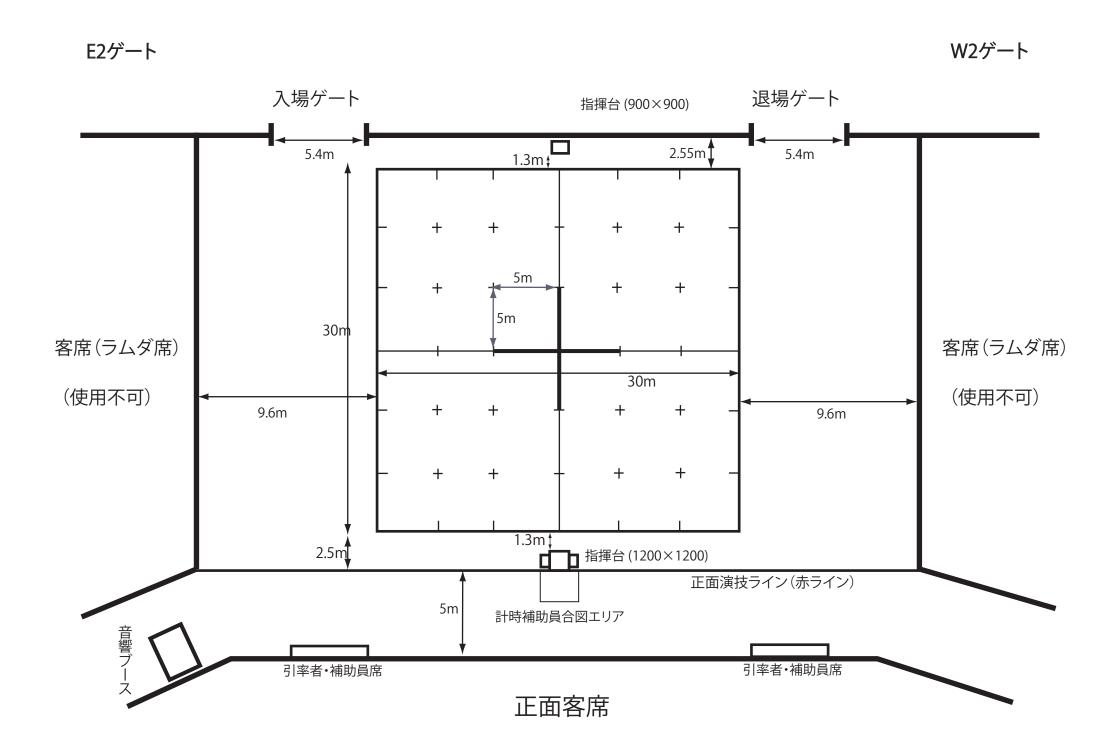
8:20	8:50	20	:40
開	開		終
	会	高等学校の部・一般の部	
場	式		了

支部別出場枠

枠 数 支 部	小学生	中学生	高等学校	一般	合 計
北海道	1	1	1	2	5
東北	9	2	4	3	1 8
関東	9	9	9	5	3 2
東海	1	2	5	3	1 1
北陸	1	1	1	1	4
関西	2	2	3	2	9
中国	1	1	4	1	7
四国	1	1	2	1	5
九州	1	1	5	2	9
沖縄	2	2	1	1	6
合 計	2 8	2 2	3 5	2 1	106

[※]上記記載の出場枠の他に、一般社団法人日本マーチングバンド協会が必要と認めた場合は出場を認めることがある。

さいたまスーパーアリーナ 演技フロア一図 小・中学生 (予定)



さいたまスーパーアリーナ 演技フロア一図 高等学校・一般 (予定) 退場ゲート 入場ゲート E2ゲート W2ゲート 1.6m 5.4m 5.4m 指揮台 (900×900) 5m 5m + + 5m 30m (使用不可) (使用不可) (ラムダ席) **客席** 30m +9.6m 9.6m 1.3m t 2.5m ┣ 指揮台 (1200×1200) 正面演技ライン(赤ライン) 5m 計時補助員合図エリア 音響ブ 引率者·補助員席 引率者·補助員席 正面客席

大会における著作権について

大会参加における著作権は著作権法に基づくものであり、大会に参加する団体はこの著作権法を遵守 しなければなりません。

以下の事項は、あくまでもその一部を補助的なものとして明記してありますが、大会に参加する団体は法律で定められた事項を遵守することが必要です。大会で使用する曲について万が一、版元とのトラブルが生じた場合は団体の責任の下に処理していただきますのでご承知おきください。

(肖像権)

プロップなどに人物画、キャラクター等をデジタルコピーまたは複写して使用する場合は肖像権の使 用許諾が必要です。

(音楽著作権使用許諾申請)

使用曲に音楽著作権使用許諾申請が必要かの有無を確認します。

- ①市販の楽譜を指定の編成で利用する …… 音楽著作権使用許諾申請の必要がない
 - ※市販の楽譜を使用する場合は、購入を証明する(領収証等)のコピーを添付し提出して頂きます。

日本国外から直接購入された楽譜は演奏できない場合もございますのでご注意ください。

- ②市販の楽譜をアレンジして利用する …… 音楽著作権使用許諾申請の必要がある
 - ※市販の楽譜にマーチングパーカッションを加えるなど、指定の編成を変えて利用する場合は、編曲使用許諾が必要です。
- ③原曲を自らアレンジした楽譜を利用する …… 音楽著作権使用許諾申請の必要がある
 - ⇒団体ごとに原曲の作曲者または版権を持っている出版社に対して編曲使用許諾申請を行ってください。(使用料等の金額並びに支払方法も提示される事があります。)
 - 尚、著作権は著作者の死後70年を経ると消滅する事が原則ですが、外国曲の中には、第二次世界大戦の期間に相当する約10年を延長して保護する必要がある楽曲が多く存在します(戦時加算)。著作権の有無は著作権管理団体(JASRAC・日本音楽著作権協会 ほか)が公開している楽曲データベースを参照するなどしてお調べください。
 - ⇒使用許諾を証明する書類を提出すること。
 - 尚、版権を所有している出版社によっては公式の許諾用書式がない場合も想定されますが、その場合は、版権所有の出版社名、担当者名、連絡先、許諾に関する対応をされた期日等を記入し、許諾に要した金額の領収書等(コピー可)を添付してご提出下さい。
- **④自作曲を利用する** …… 音楽著作権使用許諾申請の**必要がない** ※上記の申請は、参加手続きまでに申請が終了している事。

(楽譜の複製・コピーについて)

市販の楽譜をコピーして使用する場合や、楽譜データをデジタルコピーしたりプリントアウトしたり して使用する場合は、著作権者の許諾が必要です。著作権管理団体(JASRAC ほか)にお問い合わ せください。

- ※社会人の活動はもちろん、学校の部活動で利用する場合でも著作権者の許諾は必要です。
- ※JASRAC の管理楽曲については、複製部数が 100 部までの場合、1 曲につき歌詞・楽譜それぞれ 1,600 円 (消費税抜き) です。
- ※高等学校までの教育機関での楽譜コピーについては、1 曲につき歌詞・楽譜それぞれ 400 円 (消費 税抜き)となる減額措置が適用される場合があります。
- ※外国曲の場合は指し値となるため、減額措置が適用されないほか、一般的に高額となりますのでご注意ください。

不明点は、以下にお問い合わせ下さい。

一般社団法人日本マーチングバンド協会(JMBA) 03-6231-6033

E-mail: jmba@japan-mba.org

一般社団法人日本音楽著作権協会(JASRAC) 出版課 03-3481-2170

http://www.jasrac.or.jp

楽譜コピーに関する情報は、以下のウェブサイトに掲載されています。 楽譜コピー問題協議会(CARS) https://www.cars-music-copyright.jp

実施規定

1. 参加資格

- (1) 2019年9月1日現在一般社団法人日本マーチングバンド協会に団体加盟登録していること。 ※大会参加は**加盟登録名**で参加すること。
- (2) 支部または一般社団法人日本マーチングバンド協会より推薦されていること。
- (3) 構成メンバーは年間でその団体に所属している事。(短期メンバー補強は不可)
- (4) 支部大会が2019年11月4日までに終了している場合は11月8日(金)午前12時まで し、2019年11月5日以降に開催の場合は11月13日(水)午前12時までに下記(①②③
 - ④) の参加手続きをそれぞれ終えていること。(厳守)
 - ①参加申込書及び参加費の納入(構成メンバーは1名につき1,050円を納入する) ※構成メンバーには、プログラム・参加章を渡し、傷害保険に加入する。
 - ②構成メンバー登録書(当日の構成メンバー数は登録人数以内であること) ※構成メンバーとは、当日演技フロアーに入場し演奏演技及び指揮を行う者とする。 (幼保の部は搬入搬出補助員も含む)
 - ③音楽著作権に関する書類の提出
 - ④特殊効果に関する書類の提出
 - ⑤その他大会実行委員会が指定した書式
 - ※上記の書類すべてにおいて追加および変更がある場合は、11月16日(土)参加団体打合せ会議までとする。

(上記期限までに参加手続きを終えていない場合は「6. 罰則(3)注意又は警告」に該当する ので、厳守する事)

(5) 団体及び構成メンバーの全国大会への参加は1回とする。 ※ゲスト及びセレモニー等の参加はこの限りではない。

2. 部門と編成

(1) 部門

★幼保の部★

- ①単一加盟団体の幼児構成
- ②複数加盟団体の合同幼児構成(演技フロアーへ入れる搬入及び搬出補助員は最大20名までとする。尚、これらの補助員は構成メンバーとして登録をすること。)

★小学生の部★

- ①単一加盟団体の小学生構成
- ②複数加盟団体の合同小学生構成
- ③指揮者については、2名まで自由資格とする。但し、小学生以外の指揮者は指揮を行えるが演奏 演技をしてはならない。(入退場時の楽器や器物の搬入及び搬出は可)

★中学生の部★

- ①単一加盟団体の中学生構成
- ②複数加盟団体の合同中学生構成
- ③単一加盟団体の小・中学生構成
- ④複数加盟団体の合同小・中学生構成
- ⑤指揮者については、2名まで自由資格とする。但し、小中学生以外の指揮者は指揮を行えるが演奏演技をしてはならない。(入退場時の楽器と器物の搬入及び搬出は可)

★高等学校の部★

- ①単一加盟団体の高等学校団体
- ②同一学校法人内の高等学校及び中学校による合同構成
- ③複数の公立高等学校による合同構成(公立高等学校の統廃合に伴う移行期間中) ※上記のような特殊事情がある場合に限り、合同による出場を認める
- ④指揮者については、2名まで自由資格とする。但し、生徒以外の指揮者は指揮を行えるが演奏演技はしてはならない。(入退場時の楽器・器物の搬入及び搬出は可)

★一般の部★

①単一加盟団体による構成。但し、未就学児は除く。

(2) 人数編成

※編成についての留意点

小学生の部・中学生の部・一般の部における小編成・大編成及び高等学校の部における小編成・中編成・大編成の区分は、全国大会における編成(人数)を確認の上、編成別登録を行うこと。

★幼保の部★

①人数及び編成は自由とする。

★小学生の部★

- ①編成人数は下記とする。
 - ア. 小編成(指揮者を含めて50名以内)
 - イ. 大編成(指揮者を含めて51名以上)
- ②小編成・大編成の順で演技する。

★中学生の部★

- ①編成人数は下記とする。
 - ア. 小編成(指揮者を含めて54名以内)
 - イ. 大編成(指揮者を含めて55名以上)
- ②小編成・大編成の順で演技する。

★高等学校の部★

- ①編成人数は下記とする。
 - ア. 小編成(指揮者を含めて54名以内)
 - イ. 中編成(指揮者を含めて55名以上90名以内)
 - ウ. 大編成(指揮者を含めて91名以上)
- ②小編成・中編成・大編成の順で演技する。

★一般の部★

- ①編成人数は下記とする。
 - ア. 小編成(指揮者を含めて54名以内)
 - イ. 大編成(指揮者を含めて55名以上)
- ②小編成・大編成の順で演技する。

(3) 楽器編成

★幼保の部★

- ①楽器編成は自由とする。
- ②事前申請のあった場合のみAC電源の使用を許可する。
- ★小学生の部・中学生の部・高等学校の部・一般の部★
 - ①楽器編成は自由とする。
 - ②シンセサイザー、エレクトリックピアノ、エレクトリックギター、エレクトリックベース等の電源を必要とする電子楽器、及びピアノ、オルガン、ハープシコード、チェレスタ等の重量のある 鍵盤楽器は使用不可とする。
 - その他類似するものがある場合は、実行委員会に問い合わせること。

3. 演奏演技

- (1) 演技フロアーは別記の通りとする。(演技フロアー図参照) ※正面演技ラインより前方側の使用は原則として禁止する。
- (2) 演技フロアーへの入場は構成メンバーのみとする。
 - ※搬入・搬出時の登録引率者等の演技フロアーへの入場については「5. 搬入・搬出」を参照の こと。
 - (注)入場にかかる時間は安全を最優先し最大1分15秒を目安にセットアップ完了する。 退場に関しても次の団体が速やかにセットアップできるように協力する。
- (3) 演奏演技時間

★幼保の部★

- ①入場から表彰前までを8分以内とする。
- ②前の団体が退場開始後、係員の指示で入場し演奏準備を行う。
- ③演奏演技開始および終了の合図(演奏演技計時補助員)の必要はない。

★小学生の部・中学生の部★

- ①演奏演技時間は6分30秒以内とする。
- ②前の団体が退場開始後、係員の指示で入場し演奏準備を行う。
- ③演技開始の旗を振り下ろす前に、演奏する事は厳禁とする。

★高等学校の部・一般の部★

- ①演奏演技時間は8分以内とする。
- ②前の団体が退場開始後、係員の指示で入場し演奏準備を行う。
- ③演技開始の旗を振り下ろす前に、演奏する事は厳禁とする。
- (4) 計時合図

計時合図…登録引率者より選出された担当者1名もしくは指揮者 計時とは、演奏演技開始の合図として旗を振り下ろした時点から、終了の合図として再度旗を振り下ろした時点までとする。

※禁止事項

入場開始から30秒以内での演奏演技

また、計時開始合図前に演奏演技が開始された場合は計時を開始する。同様に計時終了合図後に 演奏演技が継続されていた場合は計時を続行する。(別紙参照)

4. 手具・器物・特殊効果関連

「手 具」とは…

演奏演技者個人が容易に携帯でき、自らが用いる小道具類を手具とする。

「器 物」とは…

楽器・バトン・手具類・ユニフォーム類のどれにも属さず、演奏演技者以外の物を総称して器物とする。なお、楽器や楽器運搬台に装飾を施した場合は器物とみなす。

「特殊効果」とは…

フラッシュ・ストロボ・各種ライト類 (ケミカル類含) 等の光の効果を用いたもの全てを特殊効果 とする。

(1) 演技フロアーに搬入する器物については、次に示す規格以内の大きさとする。

※規格:1m80cm×1m20cm×1m50cm以内の立体

ただし、規格内の大きさであっても、1m20cmを越える高さで演奏演技することは禁止する。

- ①器物を重ねたり密着したりして並べる場合は、その状態が規格内の大きさであること。
- ②フロアーに敷く布は器物であるが制限を設けない。
- (2) 特殊効果は使用方法・数量等の詳しい説明書を事前に大会審査委員長に提出すること。
 - ①化学反応で発光するケミカルライト類はその安全性が製造メーカーによって保証されているもののみ使用できる。
 - ②サイレンを使用する場合は特殊効果申請書を提出すること。
 - ③乾電池以外の電源の使用は禁止する。
 - ④火気・ガス類・液体類及び固形燃料類は使用を禁止する。
 - ⑤乗り物(自転車、バイク、ローラースケート、スケートボード等)、ドローン等リモコンで操作されるもの、動物は不可。
- (3) 正副指揮台は、大会本部が設置したものを設置した場所から移動することなく使用すること。 大会本部が設置した指揮台では指揮以外の使用は不可とする。 その他の場所での指揮台使用は、各団体での持ち込みを可とする。
- (4) 国旗等の使用は敬意を損なわない最大限の注意をすること。尚、フラッグ等に用いる場合は原形 での使用を禁止する。
- (5) スパンコールやビーズ等衣装の付属品は、他の団体の演技の妨げとならないようにすること。
- (6) 幼保の部は、事前に申請のあった場合のみ電源使用を許可する。但し、100V×15A以内の容量とする。

5. 搬入·搬出

- (1) 楽器・手具・器物の搬入搬出は安全かつ迅速に行うこと。また責任を持って搬入搬出をすること。尚、ここでいう搬入搬出とは演技フロアーへの入退場だけのことではなく、会場への入場から退場までの全行程のことをいう。
- (2) 全参加団体は、構成メンバーを補助する登録引率者を5名まで登録することができる。
- (3) 小学生の部の参加団体は、登録引率者以外に搬入搬出補助員(出演前後の搬入搬出のための補助員)を5名まで登録することができる。
 - ※搬入搬出補助員は、入場券を購入しなければ会場内に入場することができない。
- (4) 上記(2)・(3) の登録引率者及び搬入搬出補助員は、入場時の搬入補助を行うことができる。 演奏演技中は、フロアー正面に設ける席にて待機。演奏演技時間内の補助は禁止とするが、演技 中にトラブルが発生した場合は、p. 14「8. 演技中に発生した事故について」を参照。演奏演 技終了後は、搬出補助を迅速に行うこと。

6. 罰 則

- (1) 違反失格
 - ①『2.部門と編成』規定に反した場合
- (2) 減点
 - 違反1回につき得点から1点減点
 - ①実施規定「3. 演奏演技」に反した場合 ※タイムオーバーについては、10点の減点とする。
 - ②実施規定「4. 手具・器物・特殊効果関連」に反した場合。
- (3) 注意又は警告
 - ①大会実行委員会の指示に従わなかった場合
 - ②他の参加団体に迷惑となる行為のあった場合
 - ③非社会的な行為、大会主旨に反する行為のあった場合
 - 上記に該当した団体は、実行委員会が警告書を発送する。
 - ※2回連続警告を受けた団体は、次回大会に出場する資格を失うこともある。
 - ※具体的な警告例 ・適切なゴミ処理ができなかった団体。
 - ・参加者席、自由席の占有や自由席券で指定席への出入りのあった団体。
 - ・入場から退場まで(入場口から退場口側30m側面ラインをメンバー全員が退出するまで)の総時間の目安(小学生・中学生の部は8分45秒以内、高等学校・一般の部は10分15秒以内)を超過した団体。
 - ・期限までに参加手続きを終えていない団体

7. その他

- (1) 大会参加に要する経費は参加団体の負担とする。
- (2) 構成メンバーの登録は演奏演技予定者名を記載し参加費を納入する。
- (3) 納入された参加費は返却しない。
- (4) フロアーに入場できる人数は登録人数以内とするが、メンバーの変更は認める。
- (5) 参加団体は、代表者1名が参加団体打ち合わせ会議に出席すること。
- (6) 幼保の部の出演日については、実行委員会において決定する。日時についての希望は受け付けない。
- (7) 出演順は、参加団体打ち合わせ会議において各団体代表者が抽選の上決定する。(一般の部シード団体は除く)
- (8) 器物の搬入は指定した通路を使用し、全ての構成メンバー(手具・器物を含む)は定められた場所で待機すること。また、チューニングルーム及び入場口についても実行委員会が指定する。
- (9) グランプリ旗は翌年度の全国大会において返還する。
- (10) 高等学校の部・一般の部において2年連続グランプリを受賞した団体は翌年度の全国大会において特別演奏演技(エキジビション)とする。
- (11)特別演奏演技(エキジビション)は当該年度の実施要項に従って実施する。 但し、参加費は免除とする。
- (12)特別演奏演技(エキジビション)参加にかかわる経費は参加団体の負担とする。
- (13) 幼児編成の団体で各支部の大会に出場し推薦された団体は同年度全国大会に参加できる。但 し、2年連続出場は不可。(枠数上限以内の場合はこの限りでない)
- (14) 本規定の主旨を変更することなく、実行委員会において字句の加除訂正を行うことができる。
- (15)参加者席について 参加者席を準備する予定。

8. 演技中に発生した事故対応について

近年の演技傾向として演奏演技の高度化が計られている中で発生する事故の危険性も高くなってきました。

手具、スティック・マレット・ビーター、マウスピースや備品などが、ドロップによりフロアー上に落下し、演技者が危険にさらされる場面も多く目にするようになりました。また、演技中のステップミスなどにより転倒し、場合によっては転倒の連鎖がおきることも珍しくありません。幸い、現在までのところ大きな事故がなく参加団体側でのケア程度で済んでいる状況ですが、今後について対策を講じる必要が出てきていると感じます。

そこで下記のように不慮の事故に対するケアができるように致します。

(1) 落下物撤去について

演奏演技中の不慮の落下物について、"このままでは演技者が危険である"と判断できる状態で、演技者自ら除去できる場合を除き、登録引率者及び搬入搬出補助員(小学生の部のみ)がフロアーに入って撤去することができる。

(2) 衝突・転倒などによる演技者の不慮の事故について

演技中にプロップや他の演技者への衝突、転倒などにより被害が拡大しそうな時、また演技者が 重篤な状態に陥った場合には、審判員に連絡した後、登録引率者及び搬入搬出補助員(小学生の 部のみ)がフロアーに入ってケアすることができる。危険を回避するための行動による演技の乱 れは審査に影響しないものとする。それより先に係員が救助に入る際には演技の誤判断を避ける ために参加団体側への確認が必要とされる。

又、これ以上演技を続けた場合に危険が生じると判断された場合には、主催者の判断で演技の中断を連絡することができる。その場合の演技続行に関しては、実行委員長と審査委員長の協議により判断される。

(3) 演技の中断・再演技

主催者の原因による中断、又は自然災害による中断以外は原則として再演技は認められない。

(4) 設置ミスによる指示

登録引率者及び搬入搬出補助員(小学生の部のみ)は楽器・プロップの設置後、正しい位置に設置できたかを確認することができる。万が一設置場所などにミスがあった場合には事故を防止する観点から演奏演技開始前にフロアーに入って指示できる。

ただしあくまでも許容されるセッティング時間内で指示をすること。また演技開始後の補助は認めない。

(5) その他

この安全対策はあくまでも演技者の安全を図るために配慮したものであり、演技の完成度を補完するものではない。入場、セッティングから退場までの完成度を高めることを第一義に考えていただきたい。

安全策の為に待機する登録引率者及び搬入搬出補助員(小学生の部のみ)の待機場所については、予防策としてフロアー上に配置できるものではないため、通常のままとし、特例は認めない。

各参加団体関係者及び指導者は、この項目について理解を深めていただき、安全によりよい演技環境構築を求めて配慮するという趣旨に賛同いただきご協力お願い致します。

演奏演技時間計時方法について

(別紙)

入場からスタンバイ (入場に要する時間の目安は最大 1分15秒とする)	演奏演技時間(計時時間) (一般・高校=8分、中学生・小学生=6۶	↑30秒)	退場
大会係員から入場の指示が出たら 速やかに入場し演奏演技の準備を する。ただし入場から30秒は演 奏は厳禁とする。			演奏演技計時補助員(指揮者も可)の計時終了合図が出たら速やかに退場する。退場時の演奏は厳禁とする。
各団体の引率者より 計時補助員(指揮者 奏演技開始の合図を 下ろす所作をもって の合図をもって計時	も可) となり演 黄色の旗を振り 行う。審判はこ	演奏演技計時補助 は演奏演技終了の 振り下ろす所作を はこの合図をもっ る。	合図を黄色の旗を もって行う。審判

審查要領

審査規定

1. 審査委員長・審査員・審判員

- (1) 審查委員長
 - ①審査委員長は1名とし、審査全般の最終確認を行うとともに審査審判を円滑に遂行する。
 - ②審査委員長は審判長より報告を受け違反について最終判定を行う。
- (2) 審査員

★小学生の部★

- ①審査員は5名とする。
 - ア. 全体的演奏・演技の調和に関する審査員 5名

★中学生の部★

- ①審査員は5名とする。
 - ア. 全体的演奏・演技の調和に関する審査員 2名
 - イ. 全体的演奏技術と表現力に関する審査員 2名
 - ウ. 全体的演技技術と表現力に関する審査員 1名

★高等学校の部★

- ①審査員は8名とする。
 - ア. 音楽と視覚の調和 3名
 - イ. 演奏の調和 1名
 - ウ. 演技の調和 1名
 - エ. 管楽器の技術 1名
 - オ. 打楽器の技術 1名
 - カ. 演技 の技術[CGを含む] 1名

★一般の部★

- ①審査員は9名とする。
 - ア. 音楽と視覚の調和 3名
 - イ. 演奏の調和 1名
 - ウ. 演技の調和 1名
 - エ. 管楽器の技術 1名
 - オ. 打楽器の技術 1名
 - カ. 動きの技術 1名
 - キ. カラーガードの技術 1名

(3) 審判員

- ①審判員は2名とし、1名を審判長とする。
- ②審判長は審査委員長の補佐をする。
- ③審判員は下記の内容を審判する。
 - ア. 人数・編成・時間・器物・事故 1名(審判長)
 - イ. フロアー・入退場・時間・器物・事故 1名
- ④違反が生じた場合は協議する。審判長は協議結果を審査委員長に報告する。

2. 成績・成績判定

(1) 成績

★小学生の部★

各審査員の持ち点は100点満点とし0.5点跳びで小数点第1位まで使用できることとする。

合計点=全体的演奏・演技の調和の全審査員の合計 5×100=500点満点

得点:合計点を5で割った値(小数点第2位まで用いる)を各団体の得点とする。

成績点:上記得点から罰則に課せられた減点を差し引いたものを各団体の成績点とする。

★中学生の部★

各審査員の持ち点は100点満点とし0.5点跳びで小数点第1位まで使用できることとする。

合計点=全体的演奏・演技の調和(2名)+全体的演奏技術と表現力(2名)+全体的演技技術と表現力(1名)

=200点満点+200点満点+100点満点

=500点満点

得点:合計点を5で割った値(小数点第2位まで用いる)を各団体の得点とする。

成績点:上記得点から罰則に課せられた減点を差し引いたものを各団体の成績点とする。

★高等学校の部★

各審査員の持ち点は 2×100点=200点満点とする。なお、小数点以下は使用しない。 音楽と視覚の調和(600点満点)はそのまま集計に用い、これ以外の点数は以下に示す処理を行い 集計に用いる。

管楽器の技術+打楽器の技術 = 演奏技術点とする。小数点第2位まで用いる。

演奏の調和+演奏技術点 = 演奏点(200点満点)とする。小数点第2位まで用いる。

演技の調和+演技の技術 = 演技点(200点満点)とする。小数点第2位まで用いる。

2

合計点=音楽と視覚の調和+演奏点+演技点

=600点+200点+200点

=1000点満点

得点:合計点を10で割った値(四捨五入により小数点第2位まで用いる)を各団体の得点とする。

成績点:上記得点から罰則に課せられた減点を差し引いたものを各団体の成績点とする。

★一般の部★

各審査員の持ち点は 2×100点=200点満点とする。なお、小数点以下は使用しない。 音楽と視覚の調和 (600点満点) はそのまま集計に用い、これ以外の点数は以下に示す処理を行い 集計に用いる。

管楽器の技術+打楽器の技術 = 演奏技術点とする。小数点第2位まで用いる。

動きの技術+カラーガードの技術 = 演技技術点とする。小数点第2位まで用いる。

演奏の調和+演奏技術点 = 演奏点(200点満点)とする。小数点第2位まで用いる。

演技の調和+演技技術点 $\frac{2}{2}$ = 演技点(200点満点)とする。小数点第2位まで用いる。

合計点=音楽と視覚の調和+演奏点+演技点

 $=600 \text{ }0.0 \pm 200 \text{ }0.0 \pm$

=100点満点

得点:合計点を10で割った値(四捨五入により小数点第2位まで用いる)を各団体の得点とする。 成績点:上記得点から罰則に課せられた減点を差し引いたものを各団体の成績点とする。

(2) 成績判定 (順位の決定)

★小学生・中学生の部★

①編成ごとに成績点の高いものを上位とする。

★高等学校の部★

①編成ごとに成績点の高いものを上位とする。

★一般の部★

①成績点の高いものを上位とする。

3. 審查方法

審査は審査マニュアル2012に基づき実施する。

各部毎に設定された審査項目(キャプション)と審査基準(クライテリア)に基づき審査を実施する。

- ・小学生の部、中学生の部においては、審査基準は達成の度合いに応じて三つの段階 (BOX) がありそれぞれに点数範囲を設定する。
- ・高等学校の部、一般の部においては、審査項目は二つの副審査項目(サブキャプション)から構成され、それぞれにキーワードと審査基準を定める。各審査基準は達成の度合いに応じて五つの段階 (BOX) がありそれぞれに点数範囲を設定する。

審査員は演奏・演技中全てのキーワードについて、それらがどのように出来上がっているかを判断し、 BOX にあてはめて点数を決定する。

審査員は自身のコメントが演奏・演技のどの部分について行われているかを明確にする為、感じた事象に対して即座に肯定・否定を問わず記録する。

審査員自身の自己紹介などは演奏・演技の開始前に又、演奏・演技中に詳しく説明できなかったこと や全体を総括するようなコメントは演奏・演技終了後に記録する。したがってコメントデータは実際の 演奏・演技時間より長くなる。

小学生・中学生の部 各段階 (BOX) の点数範囲

段階 (BOX)	点数範囲
A	85点以上100点満点
В	70点以上85点未満
С	70点未満

高等学校・一般の部 各段階(BOX)の点数範囲

段階(BOX)	点数範囲
5	90点以上100点満点
4	80点以上90点未満
3	70点以上80点未満
2	60点以上70点未満
1	60点未満

4. 審查用紙

各審査用紙の1面には審査項目 (キャプション) とそのキーワード及び、段階 (BOX) の詳細がまた、 2面には審査基準 (クライテリア) の詳細を記載する。



小学生の部

No. 団体名

2019年12月14日(土) 於:さいたまスーパーアリーナ

全体的演奏・演技の調和

全体的演奏・演技の調和

演奏・演技全体を音楽的な要素と視覚的な要素の結びつきをふまえて総合的に判断する。

全体的表現

•全体構成

「緩急」「強弱」「喜怒哀楽」の変化や「起承転結」等の構成を理解した、メリハリが感じられる演奏・演技になっているか。

・音楽と視覚の調和

音楽効果と視覚効果の調和を意識した演奏・演技をしているか。

・ミュージシャンシップ

観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

•完成度

安定感のある仕上がった演奏・演技になっているか。

音楽的表現

•表現

テンポ、音色、音程等に気を付け、楽曲のスタイルや曲想を理解した音楽表現ができているか。

・バランスとブレンド

ステージング(フォーメーションの中での楽器の配置)を考えながら、管楽器内、打楽器内、管楽器と打楽器のバランスやブレンドに気を付けた合奏ができているか。

• 強弱

美しい音質を保ちながら、強弱の差が効果的に表現されているか。

統一感

イントネーション等がそろっているか。

視覚的表現

•表現

テンポ、緩急等に気を付け、楽曲のスタイルや曲想を理解した動きの表現ができているか。

・ポジションワーク

インターバル(横の間隔)やディスタンス(縦の間隔)等に気を付け、全体のフォーメーションに貢献できているか。

動作の鮮明度と同一性

動作がはっきりとして正確で、形やタイミングがそろっているか。

・リカバリー

ミスに対して適切な対応をしているか。

段階 C(BOX C)	段階 B (BOX B)	段階 A (BOX A)	
良好	優良	優秀	
70未満	70以上85未満	85以上100満点	

併 B. 只 以 個	宙且只八 石	宙且只八 石	審査員氏名
#F 6. 只 凡 仙	雷县只凡仙	雷县只凡仙	雷县只凡4
TH: FI. 52 FV/U	雷县只以 们	雷县只以 们	雷县只代省
			田 4.只少日

全体的演奏・演技の調和 審査基準(クライテリア)

- ・楽曲やコンテ(動き方を図とコメントで示したもの)の意図を伝えようとする意欲は充分で、ミュージシャンシップが強く発揮されている。
- ・メンバー(演奏・演技者)の演奏と動きが充分に調和されており、多くの場面で観客の耳と目に相乗効果的に訴えることができている。
- ・テンポの維持や変化が適切になされている。

段階

- ・楽曲のスタイルや曲想を的確に反映した音楽表現がなされ、場面ごとのバランスとブレンドや強弱のコントロール が適切になされている。
- ・ポジションワークや形、タイミングがそろえられたはっきりとした動きの表現がなされ、リカバリーも適切にされている。

・楽曲やコンテの意図を伝えようとする意欲やミュージシャンシップを感じ取ることができる。

- ・メンバーの演奏と動きが概ね調和されており、観客の耳と目に相乗効果的に訴えることができている場面が見受けられる。
- ・テンポの維持や変化が概ね正確に実施されている。

段階

В

- ・楽曲のスタイルや曲想を反映した音楽表現を行おうとする意欲が感じられ、場面ごとのバランスとブレンドや強弱 のコントロールが概ねなされている。
- ・ポジションワークや形、タイミングが概ねそろえられた動きの表現がなされ、リカバリーしようとする姿勢が感じられる。

・楽曲やコンテの意図を伝えようとする意欲やミュージシャンシップがあまり感じられない。

- ・メンバーの演奏と動きが調和されている場面が少なく、観客の耳と目に相乗効果に訴えることができていない。
- ・テンポの維持や変化が不正確である。
- ・楽曲のスタイルや曲想を意識した音楽表現があまりなされておらず、場面ごとのバランスとブレンドや強弱のコントロールも不充分である。
- ・ポジションワークや形、タイミングが揃った動きの表現があまりなされておらず、リカバリーしようとする姿勢も不足している。

段階C



中学生の部

No. 団体名

2019年12月14日(土) 於:さいたまスーパーアリーナ

全体的演奏・演技の調和

全体的演奏・演技の調和

演奏・演技全体を音楽的な要素と視覚的な要素の結びつきをふまえて総合的に判断する。

全体的表現

•全体構成

「緩急」「強弱」「喜怒哀楽」の変化や「起承転結」等の構成を理解した、メリハリが感じられる演奏・演技になっているか。

•音楽と視覚の調和

音楽効果と視覚効果の調和を意識した演奏・演技をしているか。

・ミュージシャンシップ

観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

·完成度

安定感のある仕上がった演奏・演技になっているか。

音楽的表現

・表現

テンポ、音色、音程等に気を付け、楽曲のスタイルや曲想を理解した音楽表現ができているか。

・バランスとブレンド

ステージング(フォーメーションの中での楽器の配置)を考えながら、管楽器内、打楽器内、管楽器と打楽器のバランスやブレンドに気を付けた合奏ができているか。

• 強弱

美しい音質を保ちながら、強弱の差が効果的に表現されているか。

統一感

イントネーション等がそろっているか。

視覚的表現

•表現

テンポ、緩急等に気を付け、楽曲のスタイルや曲想を理解した動きの表現ができているか。

・ポジションワーク

インターバル(横の間隔)やディスタンス(縦の間隔)等に気を付け、全体のフォーメーションに貢献できているか。

動作の鮮明度と同一性

動作がはっきりとして正確で、形やタイミングがそろっているか。

・リカバリー

ミスに対して適切な対応をしているか。

段階 C(BOX C)	段階 B (BOX B)	段階 A (BOX A)	
良好	優良	優秀	
70未満	70以上85未満	85以上100満点	

審査員氏名	

全体的演奏・演技の調和 審査基準(クライテリア)

- ・楽曲やコンテ(動き方を図とコメントで示したもの)の意図を伝えようとする意欲は充分で、ミュージシャンシップが強く発揮されている。
- ・メンバー(演奏・演技者)の演奏と動きが充分に調和されており、多くの場面で観客の耳と目に相乗効果的に訴えることができている。
- ・テンポの維持や変化が適切になされている。

・楽曲のスタイルや曲想を的確に反映した音楽表現がなされ、場面ごとのバランスとブレンドや強弱のコントロール

- が適切になされている。
- ・ポジションワークや形、タイミングがそろえられたはっきりとした動きの表現がなされ、リカバリーも適切にされている。

・楽曲やコンテの意図を伝えようとする意欲やミュージシャンシップを感じ取ることができる。

- ・メンバーの演奏と動きが概ね調和されており、観客の耳と目に相乗効果的に訴えることができている場面も見受けられる。
- ・テンポの維持や変化が概ね正確に実施されている。

・楽曲のスタイルや曲想を反映した音楽表現を行おうとする意欲が感じられ、場面ごとのバランスとブレンドや強弱 のコントロールが概ねなされている。

・ポジションワークや形、タイミングが概ねそろえられた動きの表現がなされ、リカバリーしようとする姿勢が感じられる。

・楽曲やコンテの意図を伝えようとする意欲やミュージシャンシップがあまり感じられない。

- ・メンバーの演奏と動きが調和されている場面が少なく、観客の耳と目に相乗効果的に訴えることができていない。
- ・テンポの維持や変化が不正確である。
- ・楽曲のスタイルや曲想を意識した音楽表現があまりなされておらず、場面ごとのバランスとブレンドや強弱のコントロールも不充分である。
- ・ポジションワークや形、タイミングが揃った動きの表現があまりされておらず、リカバリーしようとする姿勢も不足している。

段階C

段階

Α

段階

В



中学生の部

No. 団体名

2019年12月14日(土) 於:さいたまスーパーアリーナ

全体的演奏技術と表現力

全体的演奏技術と表現力

演奏者の技術力や表現力が十分に調整されているかを全体的に判断する。

演奏技術

•呼吸法

十分に息が吸えており、ブレスコントロールができているか。 必要な長さまできちんと息を使えているか。

•音質

無理のない自然な響きで、それぞれの楽器の特性にあった音色が作られているか。

• 音程

チューニングが正確にされているか。

正しいピッチにより旋律、和音とも自然な響きが得られているか。

・アーティキュレーション

曲想に合っており十分な多様性があるか。

よく統一されているか。

・打楽器の奏法の統一

基本的な奏法が統一されているか。

表現力

・ダイナミックレンジ

曲想に合った強弱の付け方ができているか。

・フレージング

曲想に合ったフレーズ感を表現しているか。

・バランスとブレンド

全体を通じて高音楽器から低音楽器までバランスよくブレンドされているか。

旋律やソロとハーモニーのバランスが良く、明瞭であるか。

・スタイル

楽曲のジャンル的な特徴や、楽曲そのものの個性を演奏者が十分に理解して表現しているか。

・ミュージシャンシップ

観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

		•	
段階 C(BOX C)	段階 B (BOX B)	段階 A (BOX A)	
良好	優良	優秀	
70未満	70以上85未満	85以上100満点	

宏术日丘々	
審査員氏名	

全体的演奏技術と表現力 審査基準(クライテリア)

- ・呼吸法は統一されており、常に正確なブレスコントロールで、ダイナミックレンジや音域の高度な要求に対応してい る。
- ・常に正確なチューニングと美しい音質で演奏し、乱れが感じられることはほとんどない。
- ・常に安定したテンポと正確なタイミングで演奏されており、アーティキュレーションも曲想に合わせた奏法で統一さ れている。
- ・曲想の解釈は細かい部分まで統一されており、表現の幅も十分である。また、常に楽曲の流れを考慮した表現が なされている。
- ・全体を通し、常に曲想を理解した演奏が実施され、場面ごとのバランスやブレンドのコントロールがそろえられてい
- ・楽曲のスタイルや特徴を十分に理解し、その個性を活かした表現をしようと試みており、ほとんどが成功している。
- ・観客にアピールしようとする意志は十分に力強く、ほとんどの場面において意図した内容が伝わっている。
- ・呼吸法はほぼ統一されているが、時折乱れ、不安定な響きや荒々しい音が聞かれる場面もある。
- ・多くの場面でチューニングは正確にそろえられ、美しい音質で演奏しているが、時折乱れを感じることがある。
- ・安定したテンポとタイミングで演奏されているが、時折アタックやリリースに乱れがあり、演奏の明瞭さやインパクト に欠ける場面がある。
- ・場面ごとの曲想や音量に関する解釈はある程度統一されており、表現にある程度の幅を感じとれるが十分ではな く、楽曲の流れや表現の仕方が一致しない部分もある。
- ・楽曲のスタイルや特徴を理解し、それを活かした表現を試みているが、時折不十分な場面がある。
- ・観客を意識し、アピールしようとする姿勢は感じとれるが、十分でない為に意図した内容が伝わらない場面があ る。
- ・呼吸法を統一しようとする努力は見受けられるが、ブレスコントロールの乱れが多く十分な響きが得られていない。 ・正確なチューニングと美しい音質を保とうとする努力は見受けられるが、乱れる場面が多い。
- ・テンポとタイミングに関する解釈はそろっているようであるが、アタックやリリースに乱れが多く、演奏の明確さやイ ンパクトに欠ける場面が多い
- ・場面ごとの曲想や音量に関して、統一された解釈があるようであるが、表現の幅が狭いために楽曲の流れと表現 のしかたが一致しないことが多い。
- ・楽曲のスタイルや特徴に関する理解が不足している。
- ・観客を意識し、アピールしようとする努力が不足しているために意図した内容が伝わらない。

段階 C

В

段階

Α



中学生の部

No. 団体名

2019年12月14日(土) 於:さいたまスーパーアリーナ

全体的演技技術と表現力

全体的演技技術と表現力

演技者の技術力や表現力が十分に調整されているかを全体的に判断する。

演技技術

・スタイルの統一と適応

FM、RM、MT、停止姿勢、ターン方法などが統一されているか。

動作の完成度

動作が正確に行われ、タイミングがそろっているか。

・楽器と手具の保持および使い方

演奏・演技を行うにあたり楽器や手具などが適切に使われているか。

列、間隔のそろえ方

列をそろえるにあたり、その基準を理解しているか

動きの中でインターバルやディスタンスの取り方を理解しているか。

動作の転換とタイミング

連続した動作が正確にスムーズに行われているか。

表現力

・コミュニュケーション

表現を通して観客との対話がなされているか。

・ボディーワーク

演奏している音楽に適した表現がなされているか。

・手具などの表現

手具の扱い方や振付が音楽に適した表現となっているか。

・ショーマンシップ

観客を意識し、アピールしようとする姿勢が統一されているか。

段階 C(BOX C)	段階 B (BOX B)	段階 A (BOX A)	
良好	優良	優秀	
70未満	70以上85未満	85以上100満点	

審査員氏名
畨
番宜貝仄石
催且只八 石

全体的演技技術と表現力 審査基準(クライテリア)

- ・姿勢や動作、楽器や手具の持ち方等のスタイルは完全またはそれに近い状態で統一されており、良く洗練されて
- ・動作やタイミングは良くそろっており、ミスがあった場合のリカバリーも早く正確である。
- ・フォーメーションの中で、列や間隔の乱れは非常に少なく、あったとしてもほとんど気にならない。
- ・音楽に適した表現が良くできており、アピールしようとする姿勢も高い。

段階 Α

- ・姿勢や動作、楽器や手具の持ち方等のスタイルを統一しようとする基準は認識できるが、不十分である。
- ・動作やタイミングは概ねそろっているが、細部の調整が不十分な場面があり、ミスのリカバリーが遅くなることがあ
- ・フォーメーションの中で、列や間隔をそろえようする意識はあり、その合わせ方も理解しているようであるが、不十 分な場面がある。
- ・音楽を意識しているが、アピールしようとする姿勢が不足し、表現力に欠ける場面がある。

В

- ・姿勢や動作、楽器や手具の持ち方等のスタイルを統一しようとする基準があいまいで、統一感が弱い。
- ・動作やタイミングを合わせようとする努力は見受けられるが、不揃いな場面が多い。
- ・ミスの自覚が乏しくリカバリーの機会を失う場面が多い。
- ・フォーメーションの中で、列や間隔をそろえようする努力は見受けられるが、不揃いな場面が多い。
- ・音楽に関する理解度が不足し、アピールしようとする姿勢が少ないことが表現力の乏しさにつながっている。

段階

С



高等学校の部

No. 団体名

2019年12月15日(日) 於:さいたまスーパーアリーナ

音楽と視覚の調和

作品の全体的調和

ショ―全体のコーディネーションを音楽的な要素と視覚的な要素との結びつきをふまえて総合的に判断する。

・コーディネーション

ショ―の流れに「緩急」「強弱」「喜怒哀楽」や「起承転結」を感じさせる変化があるか。

また、無理のない流れがあるか。

クライマックスが表現されているか。

各セクションの組合せに調和や変化が感じられるか。

音楽と視覚の調和

音楽と視覚が調和されているか。

- 独創性と多様性

作品が独創性に優れ、なおかつ多様性に富んでいるか。

60未満 60~69 70~79 80~89 90~100	段階 1 (B0X1) 努力を要す	段階 2 (B0X2) ふつう	段階 3 (B0X3) 良好	段階 4 (B0X4) 優良	段階 5 (B0X5) 優秀
	6 0 未満	60~69	70~79	80~89	90~100

作品の解釈と表現

ショ―全体の解釈と表現を音楽的な要素と視覚的な要素の結びつきをふまえて総合的に判断する。

・表現の幅と質

作品が意図するところを理解し、強弱や緩急、喜怒哀楽などの表現に幅をもたせているか。 また、それらを高めようとしているか。

・ミュージシャンシップとショーマンシップ

観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

また、観客とのコミュニケーション(伝達)が良好か。

-完成度

内容を把握し、ミスやエラーのない演奏・演技になっているか。

表現の幅と質が作品の意図するところを理解したものとなっているか。また強弱や緩急、喜怒哀楽などの表現が完成したものとなっているか。

段階 1 (B0X1)段階 2 (B0X2)段階 3 (B0X3)努力を要すふつう良好6 0未満6 0~6 97 0~7 9	段階 4 (B0X4) 優良 8 0~8 9	段階 5 (B0X5) 優秀 9 0~1 0 0		
--	------------------------------	--------------------------------	--	--

ō	ı

f 宜 貝 八 行	番査員氏名
-----------	--------------

音楽と視覚の調和 審査基準(クライテリア)

	日栄と悦見の調和 番宜	
	作品の全体的調和	作品の解釈と表現
段階 5	 ・作品全体において調整が行き届いており、違和感はほとんど無い。 ・作品全体の構成、処理は、バラエティーに富んでおり、部分的な処理にも多様性が感じられる。 ・色彩的にも豊かであり、かつ音楽との整合性もあり効果的である。 ・場面ごとに多くの、聴かせ所や見せ場があり、それらが大変うまく強調されており、非常に効果的である。 ・作品全体を通して常に平均的なレベル以上の効果が生み出されており、長い時間観客を引き付ける事に成功している場面が多々ある。 ・ほとんどの場面で、解釈、処理が独創的かつ高度であり、それらが効果に密接に結びついている。 	 ・演奏・演技者による作品の理解は充分かつ高度で、観客とのコミュニケーションは常に円滑で密度も高く行われている。 ・ほとんどの場面で演奏・演技者の集中力は常に深く継続しており、観客は作品の意図を充分理解し楽しむ事が出来る。 ・演奏・演技者による感情表現は幅広く、質的にもバラエティー豊かに表され、観客を度々魅了し感動させる。 ・ほとんどの場面で演奏・演技者のミュージシャンシップやショーマンシップが常に強く発揮され、観客が感動する場面が度々ある。
段階 4	 ・作品全体において、多くの場面で調整されているが、違和感がある部分もある。 ・作品全体の構成、処理にバラエティーも感じられるが、平淡に感じられる部分もある。 ・色彩的に豊かであり、音楽との整合性も感じられるが、違和感がある部分もある。 ・場面ごとに聴かせ所や見せ場があり、効果が強調されているが、効果が限定的である。 ・多くの場面で継続して平均以上の効果を発揮している部分があり、観客を引き付ける事もあるが、それぞれが繋がらない。 ・随所に独創的な解釈、処理が感じられるが、それが直接効果に繋がらない場合も少しある。 	 ・演奏・演技者による作品の理解は充分で、観客とのコミュニケーションは高いが、伝わりきらない場合がある。 ・多くの場面で演奏・演技者の集中力は安定しているが、作品の意図が継続的に伝わらない場合もある。 ・演奏・演技者による感情表現の幅は広く、観客が心を動かされる場面も少なくないが、伝わらない場合もある。 ・多くの場面で演奏・演技者のミュージシャンシップやショーマンシップは発揮されているが、観客を感動させられない場合もある。
段階 3	 ・作品全体において調整されている様に感じられるが、調整が不足している部分も少なくない。 ・作品全体の構成、処理にバラエティーも感じられるが、平淡に感じられる部分もある。 ・やや、全体的な色彩が単調で、音楽との整合性も不足している。 ・聴かせ所や見せ場と感じられる部分もあるが、充分な効果を出し得てはいない。 ・効果的と思える部分はあるが、断片的であり、長続きしない場合が多い。 ・独創的な解釈、処理がなされていると感じられる部分があるが、多くはない。 	 ・演奏・演技者によるは作品の理解は得られているようだが、 観客とのコミュニケーションは十分ではない。 ・ある程度、演奏・演技者の集中力を感じる部分もあるが、作品の意図が継続的に伝わらない。 ・演奏・演技者は作品が持つ感情表現も感じさせているが、 観客の感情を操作するには至らない。 ・ある程度、演奏・演技者のミュージシャンシップやショーマンシップは発揮されているが、観客を感動させられない場合もある。
段 階 2	・作品全体において調整されている部分が不足しており、違和 感も多く感じられる。 ・作品全体の構成、処理、色彩が平坦に感じられる。 ・聴かせ所や見せ場と感じられる部分が不足しており、その多く が効果を発揮していない。	・演奏・演技者による作品の理解は不足しており、観客とのコミュニケーションも不十分である。 ・演奏・演技者の集中力が不足しており、作品の意図が伝わらない。 ・演奏・演技者による感情表現はあまり感じられない。
段 階 1	・作品全体が調整されている様には感じられず、雑然としてい る。	・演奏演技者による作品の理解は未熟で、観客に対する意識も希薄である。



高等学校の部

No. 団体名

2019年12月15日(日) 於:さいたまスーパーアリーナ

演奏の調和

演奏の音楽性

演奏の音楽性がいかに優れているかを、管楽器・打楽器の両面にわたって、演奏者全体もしくは各セクションに関して判断する。

•表現力

音楽的表現がいかに幅広く多様で音楽の内容をよく理解しているか。

・フレージング

曲想に合ったフレージングがなされているか。

統一されているか。

・ダイナミックレンジ

強弱が適切かつ統一されているか。

その範囲がいかに幅広いか。

・バランスとブレンド

バランスとブレンドのコントロールがどのように行なわれているか。

・テンポ

テンポの維持・コントロールがどの程度正確かつ適切に行なわれているか。

2 (B0X2)段階 3 (B0X3)段階 4 (B0X4)段階 5 (B0X5)つう良好優良優秀~6970~7980~8990~100
--

演奏の質と技術

演奏の質や、全体的な技術がいかに優れているかを、管楽器・打楽器両面にわたって、演奏者全体もしくは各セクションに関して判断する。

・全体的な音質

全体的な音質が美しいか。

・チューニング

チューニングが的確になされているか。

・イントネーション

イントネーションがどれだけ揃っているか。

・リズミックコントロール

リズミックコントロールが適切にされているか。

・タイミング

タイミングが正確に揃っているか。

・フォーカス(音の方向性・指向性)

フォーカスコントロールがどの程度適切で、かつ揃っているか。

段階 1 (B0X1)	段階 2 (B0X2)	段階 3 (B0X3)	段階 4 (B0X4)	段階 5 (B0X5)	
努力を要す	ふつう	良好	優良	優秀	
6 0 未満	60~69	7 0 ~ 7 9	8 0 ~ 8 9	9 0~1 0 0	
					스타

合計

緊査員 氏名

演奏の調和 審査基準(クライテリア)

1		<u> </u>		
	演奏の音楽性	演奏の質と技術		
段階 5	 ・音楽表現は常に幅広く深みがあり、内容も多様である。 ・フレージングは常に曲想を的確に反映したもので、乱れはほとんど感じられない。 ・バランスとブレンドのコントロールは常に適切に整えられている。 ・テンポは常に正確に維持され、その変化のコントロールも柔軟かつ確実で乱れない。 	 ・音質は常に美しく整えられ、乱れが感じられることはほとんどない。 ・チューニングは正確で、ピッチが不ぞろいな部分はほとんどない。 ・イントネーションは良くそろえられており、違和感はほとんどない。 ・リズミックコントロールはほとんどの場面で適切に行われ、自然な流れが保たれる。 ・タイミングに対する理解が的確で、乱れることはほとんどない。 ・フォーカスコントロールは常に適切で、音がバラバラの向きに飛ぶようなことはほとんどない。 		
段階 4	 ・音楽表現は多くの場面で適切になされているが、幅や深みに不足を感じる部分もある。 ・フレージング多くの場面で曲想を反映しているが、乱れを感じる部分もある。 ・ダイナミックレンジは広く、多くの場面でコントロールされているが、乱れを感じる部分もある。 ・テンポは維持され、その変化も多くの場面でコントロールされているが、乱れる場合もある。 	 ・音質は多くの場面で美しく整えられているが、乱れが感じられることもある。 ・チューニングは概ね正確だが、ピッチがふぞろいに感じられる部分もある。 ・イントネーションは概ねそろっているが、違和感がある部分もある。 ・リズミックコントロールは多くの場合適切だが、流れが損なわれる場面もある。 ・フォーカスコントロールは多くの場面で良好だが、音の向きががまとまりに欠け、やや拡散することがある。 		
段階 3	 ・音楽表現はある程度なされているが、幅広さに欠け、単純に感じられる。 ・フレージングはある程度整えられているが、不足を感じる。 ・ダイナミックレンジはやや狭く、コントロール不足を感じる。 ・バランスとブレンドはある程度整えられているが、不足を感じる。 ・テンポはある程度維持されているが、その変化をコントロールしきれずに乱れる。 	 ・音質はある程度美しく整えられているが、不足を感じる。 ・チューニングはある程度そろっているが、ピッチがふぞろいな部分も多い。 ・イントネーションはある程度そろっているが、違和感がある部分も多い。 ・リズミックコントロールはある程度なされているが、不自然さを感じる部分が多い。 ・フォーカスコントロールはある程度なされているが、音がバラバラと拡散する時間が長い。 		
段階 2	 ・音楽的な表現が不足しており、表現も単調である。 ・ダイナミックレンジは狭く、あまりコントロールされていない。 ・フレージングはあまり整えられておらず、ふぞろいである。 	 ・音質を美しく保とうとする努力が不足している。 ・チューニングは大雑把であり、ピッチがそろわない場面も多い。 ・リズムやタイミング、フォーカスの理解が不足している。 		
段階 1	・音楽的に何かを表現しようとしているようには感じられない。・フレージングやダイナミクスが設定されているようには聴こえない。	・音質を美しく保とうとしているようには聴こえない。 ・チューニングやリズムは不正確で、そろっていない。		



高等学校の部

No. 団体名

2019年12月15日(日) 於:さいたまスーパーアリーナ

演技の調和

視覚要素(フォーム、ボディ、手具)

演技の構成がいかに優れているかを、演技者全体もしくは各セクションに関して判断する。

- 統 性
- 視覚的構成がいかにまとまっているか。
- ・視覚的音楽性(フレージング、解釈、強調) 視覚的構成がいかに音楽的であるか。
- •表現力

視覚的表現がいかに豊かであるか。

•多様性

視覚的構成がいかに多様であるか。

演技の質と技術

演技の質や全体的な技術がいかに優れているかを、演技者全体もしくは各セクションに関して判断する。

- 同一性
- 同じ動作がいかに同じようにできているか。
- •全般的技術
- 全般的な動作の技術がいかに優れているか。
- ・アーティキュレーション
- 動作のアーティキュレーションがいかにそろっているか。
- •鮮明度
- 動作がいかにはっきりと、かつ明瞭に行なわれているか。
- ・リカバリー
- リカバリーがいかに早いか。

段階 1 (B0X1)	段階 2 (B0X2)	段階 3 (B0X3)	段階 4 (B0X4)	段階 5 (B0X5)	
努力を要す	ふつう	良好	優良	優秀	
6 0 未満	6 0 ~ 6 9	7 0 ~ 7 9	8 0 ~ 8 9	9 0~1 0 0	
					合計

審査員氏名______

演技の調和 審査基準(クライテリア)

	演技の調和 番査基準(クライテリア)							
	視覚要素(フォーム、ボディ、手具)	演技の質と技術						
段階 5	 ・統一性は十分で常にまとまっており、乱れる部分はほとんどない。 ・視覚的構成に音楽が十分に反映しており、違和感を覚えることは少ない。 ・手具が効果的に使用され、かつ音楽を視覚的に表現する効果を十分に発揮しており、違和感があることは少ない ・視覚的に豊かな表現がなされ、不足に感じる部分が少ない。 ・多様性に大変富んでおり、状態の変化も常に継続して行なわれている。 	 ・常に高い動作の同一性を保ち、不揃いな部分は少ない。 ・ほとんどの場面で継続した技術の優秀性を発揮し、未熟さを感じる部分は少ない。 ・アーティキュレーションは十分整っており、不ぞろいな部分は少ない。 ・動作は常に鮮明で、はっきりとしている。 ・ほとんどの場合、リカバリーは素早く、的確になされる。 						
段階 4	 ・多くの場面で視覚的に統一され、まとまっているが、乱れる部分が時々気になる。 ・多くの場面で視覚的構成に音楽を反映している部分が見られるが、違和感を覚える場面も少しある。 ・多くの場面で手具などが効果的に使用され、音楽を反映した表現が見られるが、違和感があることが少しある。 ・多くの部分で豊かな視覚的表現がなされるが、もの足りなさを覚える部分も少しある。 ・多様性は豊かではあるが、単調な部分もある。 	 ・動作は概ね同一性を保っているが、不揃いな部分もある。 ・多くの場面で技術の優秀性を示すが、未熟さを感じる場面もある。 ・アーティキュレーションは概ねそろっているが、気になる部分もある。 ・動作は鮮明だが、はっきりしない部分もある。 ・多くの場合、リカバリーは迅速にされるが、時折時間が掛かる場合や不完全なことがある。 						
段階 3	 ・ある程度、視覚的に統一されているが、まとまりのない部分も少なくない。 ・ある程度、視覚的構成に音楽を反映している部分が見られるが、全体的に不足している。 ・ある程度、手具などの効果的な音楽表現があるが、もの足りない。 ・豊かな表現力を感じられる部分もあるが、全体的にもの足りない。 ・多様に変化する部分も感じられるが、単調な状態が多い。 	 ・ある程度、動作は揃っているが、不揃いな部分が多い。 ・高度な技術の習得を示す部分を感じられるが、全体的に未熟さが見える。 ・整ったアーティキュレーションを感じる部分もあるが、不十分な場面が多い。 ・鮮明な動作を感じる部分もあるが、はっきりしないことが多い。 ・リカバリーはされるが、時間が掛かることが多く、不完全な場合が少なくない。 						
段階 2	・統一感が不足しており、まとまりも感じられない。・視覚的構成に音楽性を感じられる部分はあまりない。・手具などの表現に音楽性を感じる部分が少なく、その効果も感じられない。・表現力を感じることができず平坦である。	・動作が揃っている部分が少なく、それぞれの動きも十分ではない。・良好な技術を示すことが少なく、初歩的な範囲から脱しきれていない。・アーティキュレーションがそろっておらず、不鮮明である。						
段階 1	・全てにおいて不ぞろいで、まとまりがない。	・同じ内容の動作をしているように見える場面がない。 ・初歩的な動作の技術の習得が不足している。						



高等学校の部

No. 団体名

2019年12月15日(日) 於:さいたまスーパーアリーナ

管楽器の技術

基礎技術力

管楽器セクションの基礎技術力がいかに優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断す る。

- •呼吸法
- 十分に息が吸えているか。安定したブレスコントロールができているか。必要な長さまできちんと息を使えているか。
- 無理のない自然な響きが得られているか。それぞれの楽器の特性に合った音色をつくっているか。
- •音程
- チューニングが正確になされているか。正しいピッチにより旋律、和音とも自然な響きが得られているか。
- ・アーティキュレーション
- 曲想に合っているか。十分な多様性があるか。よく統一されているか。
- テンポ及びタイミング
- ある一定のテンポ感を安心して感じることができるか。テンポ・タイミングがどの程度正確か。

段階 1 (B0X1) 段階 2 (B0X2) 段階 3 (B0X3) 段階 4 (B0X4) 段階 5 (B0X5) 努力を要す ふつう 良好 優良 優秀 60~69 70~79 80~89 90~100					
	段階 1 (B0X1)	段階 2 (B0X2)	段階 3 (B0X3)	段階 4 (B0X4)	段階 5 (B0X5)
60未満 60~69 70~79 80~89 90~100	努力を要す	ふつう	良好	優良	優秀
	60未満	60~69	70~79	80~89	90~100

表現力

管楽器セクションの表現力がいかに優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

- 表現方法とフレージング
- 音楽的表現がいかに幅広く、多様で音楽の内容をよく理解しているか。
- 曲想に合ったフレージングがなされ、それが統一されているか。
- ・ダイナミックレンジ
- 音量に関しての解釈が統一されているか。曲想に合った強弱の付け方ができているか。
- ・バランスとブレンド
- 全体を通じて高音楽器から低音楽器までバランス良くブレンドされているか。
- 旋律やソロとハーモニーのバランスが良く、明瞭であるか。
- 楽曲のジャンル的な特徴や、楽曲そのものの個性を演奏者がいかに理解し表現しているか。
- ・ミュージシャンシップ
- 観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

段階 1 (努力を 6 0 を	段階 2 (B0X2) ふつう 60~69	段階 3 (B0X3) 良好 7 0 ~ 7 9	段階 4 (B0X4) 優良 8 0 ~ 8 9	段階 5 (B0X5) 優秀 9 0 ~ 1 0 0	
					合計

F査員氏名

管楽器の技術 審査基準(クライテリア)

	基礎技術力	表現力
5 韓幼	 ・呼吸法や発音、リリースはほとんど完璧に統一されている。 ・常にリラックスした状態で安定したブレスサポートを駆使し、強弱・音域・音色変化の高度な要求にも明瞭かつ瞬時に対応している。 ・音質は豊かで繊細かつ力強い。 ・各楽器の特性に合った音色を理解しており、乱れることはほとんどない。 ・アンブシュアの安定により自然な響きが得られており、多彩な音色を持っている。 ・音程はほとんどの場面で完璧に維持され、確固たるイヤートレーニングに支えられた正確なピッチコントロールが美しいイントネーションとハーモニーを生み出している。 ・アーティキュレーションはほとんどの場面で統一され、バリエーションも豊富で、曲想に合わせて適切に使用されている。 ・テンポやタイミングに関する解釈はほとんどの場面で統一されており、一定のテンポ感を安心して感じることができる。 	・表現方法は多彩で幅広く、楽曲に関する深い理解と音楽性をほとんどの場面において感じ取ることができる。また、フレージングは音楽的で良く統一されている。 ・ダイナミックレンジは非常に幅広く、ほとんど乱れることなくコントロールされている。また、強弱の設定も適切で解釈もほぼ統一されている。 ・バランスは常に維持され、ppやffを演奏する場合でも個々の音が飛び出すことはほとんどなく、豊かにブレンドしている。また、メロディーと伴奏のバランスも良い。 ・楽曲のスタイルや特徴を十分に理解している。また、音楽の個性を活かした表現を試み、ほとんどの場面で成功している。 ・ミュージシャンシップに満ちており、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が強く感じられる。また、ほとんどの場面において奏者の意図する内容が明瞭に伝わる。
段階 4	 ・呼吸法や発音、リリースは多くの場面で統一されているが、難しいフレーズを演奏する場合などにブレスサポートの乱れを感じることがある。 ・音質は多くの場面において良好で楽器本来の音色が得られているが、ダイナミクス・音域等の高度な要求がある時に炸裂音や音色の劣化がみられることがある。 ・音程は多くの場面で良く維持されているが、イントネーションやハーモニーに乱れを感じることもある。 ・アーティキュレーションは多くの場面で統一されているが、違和感がある部分もある。 ・テンポやタイミングに関する解釈は多くの場面で統一されているが、乱れを感じることもある。 	 ・表現方法は幅広いが、時折楽曲の理解が不十分に感じられる場面もある。また、フレージングも音楽的で適切だが、それらが損なわれたり、乱れたりする場面もある。 ・ダイナミックレンジは広く、多くの場面でコントロールされているが、乱れを感じる部分もある。また、強弱の設定は概ね適切だが、不自然に感じることもある。 ・バランスは多くの場面で維持されるが、個々の音がパートにブレンドしないこともある。また、メロディーと伴奏のバランスも概ね良いが、メロディーが埋もれてしまうこともある。 ・楽曲のスタイルや特徴を概ね理解し、その個性を活かした表現を試みているが、成功しないこともある。 ・ミュージシャンシップを感じることができ、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が感じられるが、奏者の意図する内容が伝わり切らないこともある。
段階 3	 ・呼吸法や発音、リリースはある程度そろっているが、ブレスサポートが乱れるため不安定な響きや荒々しい音色がしばしば聞かれる。 ・音質を良好に維持しようとする姿勢は感じられるが、f(フォルテ)では荒々しくなり、p(ピアノ)では弱々しい響きになりやすく、音色にバラつきも生じる。 ・音程はある程度そろえられているが、ピッチコントロールが弱く、イントネーションやハーモニーがしばしば乱れる。 ・アーティキュレーションをそろえる意志は感じられるが、統一感が弱く、不明瞭な印象を受ける。 ・テンポやタイミングを合わせる意志は感じられるが、その方法やテクニックの問題から乱れを生じる。 	 ・表現方法にある程度の幅を感じ取れるが、楽曲の理解に不足を感じる。また、フレージングは音楽的にやや不十分で乱れることが多い。 ・ダイナミックレンジはやや狭く、コントロール不足も目立つ。また、強弱の設定はある程度なされているが、解釈に統一感がなく、違和感がある。 ・バランスはある程度維持されているが、個々の音がパートにブレンドしないことが多い。また、バランスの問題からメロディーが不明瞭に感じられる場面が多い。 ・楽曲のスタイルや特徴をある程度理解しているように思われるが、その表現は成功しないことが多い。 ・ミュージシャンシップはやや弱く、観客にその音楽をアピールしようとはするが意図する内容が伝わり切らない。
段階 2	 ・呼吸法に関する理解が不十分で、ムダな力みのため、必要なブレスサポートが得られていない。また、発音やリリースをそろえる意識も弱い。 ・音質を良好に維持しようとする意志が弱く、ブレスやアンブシュアの不安定さによる個々の音色のバラつきも目立つ。 ・チューニング自体が不完全であり、耳を使って一定の音程を保つトレーニングが不足している。 ・アーティキュレーションに関する理解が不十分で、テンポやタイミングをそろえる意識やトレーニングも不足している。 	・表現方法の幅が狭く、楽曲の理解も浅く不十分である。また、演奏の努力は認められるが音楽的な表現が不足しており、フレージングに関する認識もあまり感じられない。 ・ダイナミックレンジは狭く、あまりコントロールもされていない。また、強弱の設定も不明瞭である。 ・バランスを維持しようとする意識が希薄なため、メロディーラインが不明瞭である。また、個々の音の飛び出しが著しく目立ち、パートにブレンドしない。 ・楽曲のスタイルや特徴に関する理解が浅く、不十分である。また、奏者の意図も観客にうまく伝わらない。
段 1	 ・呼吸法に統一性が認められず、楽器本来の音色が聞かれない。 ・ブレストレーニングやアンブシュアの改善が必要である。 ・チューニングができておらず、音程を合わせようとしているようには感じられない。 ・テンポやタイミングに関する個々の理解が認められず、演奏がまちまちでそろわない。 	 ・表現方法やフレージングに関して、統一された解釈があるようには感じられない。 ・ダイナミクスやバランスに関する認識があるようには感じられない。 ・楽曲に関する理解が感じられず、何かを伝えようとする姿勢が見受けられない。



高等学校の部

No. 団体名

2019年12月15日(日) 於:さいたまスーパーアリーナ

打楽器の技術

基礎技術力

打楽器セクションの基礎技術力がどの程度優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

・奏法の統一と適応

グリップ、フォーム、スティックハイトがどの程度統一されているか。

音楽の音作り

楽器本来の良い音が出せているかどうか。(奏法的に導き出せているか。調整で導き出せているか。) 楽曲に対し、適した楽器、道具(スティック等)を使用しているか。会場の音響を考慮した音作り(調整)がされているか。 各楽器の音程、音域がバランス良く決められているか。

ピッチの正確さ

同じ楽器間で個々のピッチがどの程度正確か。楽曲の特徴に配慮した音程、音域になっているか。

アーティキュレーションの明確さ

同じ内容の演奏をしていると思われる演奏が、どの程度同じように演奏されているか。 演奏上のミス、くせ、手順、アクセント、中断等がいかに少ないか。

テンポ及びタイミング

ある一定のテンポ感を安心して感じることができるか。テンポ、タイミングがどの程度正確か。

努力を要す ふつう 良好 優良 優秀
60~69 70~79 80~89 90~100

表現力

打楽器セクションの表現力がどの程度優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

表現方法とフレージング

音楽的表現がいかに幅広く多様で、音楽の内容をよく理解しているか。また、曲想にあったフレージングがなされているか、統一されているか。

・ダイナミックレンジ

音量に関しての解釈が統一されているか。 曲想を考慮した強弱の付け方ができているか。

四心とう思いに強烈の下げカル CC (

・バランス

各楽器間の音量のバランスが、的確に決められているか。

・スタイル

楽曲のジャンル的な特徴や、楽曲そのものの個性を、演奏者がどの程度理解し表現しているか。

・ミュージシャンシップ

観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

段階 1 (B0X1)	段階 2 (B0X2)	段階 3 (B0X3)	段階 4 (B0X4)	段階 5 (B0X5)	
努力を要す	ふつう	良好	優良	優秀	
6 0 未満	6 0 ~ 6 9	7 0 ~ 7 9	8 0 ~ 8 9	9 0~1 0 0	
					合計

審査員氏名 _______

打楽器の技術 審査基準(クライテリア)

	基礎技術力	表現力
段階 5	 ・奏法はほぼ完全に統一されており楽曲に対する配慮も適切で個人差を見つけるのはむずかしい。また個々の音色、音量に差がほとんどなく、全体的なアーティキュレーションの明確性に大きく貢献している。 ・楽器の特性を引き出す音作りがほぼ完璧になされており、音域が効果的に設定されている。 ・同じ楽器間でのチューニングはほとんど完璧に調整されており、楽曲に対する配慮も適切で違和感な場面はほとんどない。 ・楽譜の解釈はほぼ完全に統一され、アーティキュレーションのミスはほとんど感じられない。 ・テンポ、タイミングに関する解釈が統一されておりこれらのミスはほとんどない。 	・表現方法は多彩で幅広く、楽曲に対する深い理解と音楽性をほとんどの場面において感じ取ることができる。フレージングは音楽的で良く統一されている。 ・ダイナミックレンジは非常に幅広く、ほとんど乱れることなくコントロールされている。また、強弱の設定も適切で解釈もほぼ統一されている。 ・バランスは常に維持され、ppやffを演奏する場合でも乱れることはほとんどない。また、パートやセクションとしての豊かなサウンドを形成している。 ・楽曲のスタイルや特徴を充分に理解している。音楽の個性を活かした表現を試み、ほとんどの場面で成功している。 ・ミュージシャンシップに満ちており、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が強く感じられる。また、ほとんどの場面において奏者の意図する内容が明瞭に伝わる。
段階 4	 ・奏法は多くの場面で統一され、楽曲に対する配慮もなされており個人差はほとんど見受けられない。また個々の音色、音量等も良くそろっているが、統一性の不完全さから、時折乱れを感じることがある。 ・楽器の特性を引き出す音作りがある程度なされており、音域は概ねパランス良く設定されている。 ・楽譜の解釈は多くの場面で統一されているが、アーティキュレーションのミスが時折ある。 ・同じ楽器間でのチューニングは概ねそろっているが、楽曲に対し適切でない場合が時折、見受けられる。 ・テンポ、タイミングに関する解釈は多くの場面で統一されているが、時折乱れを感じることがある。 	・表現方法は幅広いが、時折楽曲の理解が不十分に感じられる場面もある。また、フレージングも音楽的で適切だが、それらが損なわれたり、乱れたりする場面もある。 ・ダイナミックレンジは広く、多くの場面でコントロールされているが、乱れを感じる部分もある。また、強弱の設定は概ね適切だが、不自然に感じることもある。 ・バランスは多くの場面でうまく維持されるが、やや乱れてパートやセクションでうまくそろわないこともある。 ・楽曲のスタイルや特徴を概ね理解し、その個性を活かした表現を試みているが、成功しないこともある。 ・ミュージシャンシップを感じることができ、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が感じられるが、奏者の意図する内容が伝わり切らないこともある。
段階 3	 ・奏法はある程度、統一されているが、グリップ、フォーム、スティックハイト等の調整に不足を感じる。 ・楽器の特性をある程度引き出しているが、若干の違和感がある。 ・楽譜の解釈はある程度統一されているが、アーティキュレーションにミスが生じる。 ・同じ楽器内でのチューニングはある程度揃えられているが十分ではない。 ・テンポ、タイミングに関する解釈はある程度統一されているが、不正確な部分が少なくない。 	・表現方法にある程度の幅を感じ取れるが、楽曲の理解に不足を感じる。フレージングは音楽的にやや不十分で乱れることが多い。 ・ダイナミックレンジはやや狭く、コントロール不足も目立つ。強弱の設定はある程度なされているが、解釈に統一感がなく違和感がある。 ・バランスはある程度維持されているが乱れも目立ち、パートやセクションでそろわないことが多い。 ・楽曲のスタイルや特徴をある程度理解しているように思われるが、その表現に成功しないことが多い。 ・ミュージシャンシップはやや弱く、観客にその音楽をアピールしようとはするが意図する内容が伝わり切らない。
段階 2	・奏法に関する基準が不十分で、グリップ、フォーム、スティックハイト等が不揃いなため、個々の音色、音量に違いが出てしまっている。 ・使用している楽器の特性を引き出そうとする努力が不足しており、楽曲の特徴を考慮した楽器の音色に不自然さを感じる。 ・楽譜の内容に関する解釈が不十分で、ミスが多いため明瞭さが不十分である。 ・同じ楽器内でのチューニングにバラツキが感じられる。 ・テンポ、タイミングに関する解釈が不十分で、正確さに欠ける。	・表現方法の幅が狭く、楽曲の理解も浅く不十分である。演奏の努力は認められるが音楽的な表現が不足しており、フレージングに対する認識もあまり感じられない。 ・ダイナミックレンジは狭く、あまりコントロールもされていない。強弱の設定も不明瞭である。 ・バランス設定が的確に決められていないため、各楽器のサウンドにバラツキを感じる。 ・楽曲のスタイルや特徴に関する理解が浅く、不十分である。奏者の意図も観客にうまく伝わらない。
段 間 1	・奏法に関して基準があるように見受けられない。またグリップ、フォーム、スティックハイト等が不揃いで、統一感が感じられない。 ・使用している楽器の特性が全く引き出されていない。また、楽曲の特徴を考慮した楽器の音色が引き出せていない。 ・楽譜の内容に関して個々の解釈、演奏がまちまちで明瞭さがない。 ・同じ楽器内でのチューニングが全くそろっていない・テンポ、タイミング等の解釈に個人差がある。	 表現方法やフレージングに関して、統一された解釈があるようには感じられない。 ・ダイナミクスやバランスに対する認識があるようには感じられない。 ・楽曲に対する理解が感じられず、何かを伝えようとする姿勢が見受けられない。



高等学校の部

No. 団体名

2019年12月15日(日) 於:さいたまスーパーアリーナ

演技の技術(カラーガードを含む)

基礎技術力

演技者の基礎技術力がいかに優れているかを、カラーガードの技術を含め、個々のプレーヤーもしくはグループに関して判断する。(すべての動くセクションを対象としてサンプリングする)

スタイルの統一と適応

フォワードマーチ、リアマーチ、マークタイム、停止姿勢、ターン方法等が統一されているか。また、その動作が演奏することに適しているか。

動作の転換とタイミング

全ての連続動作が正確でスムーズに行われているか。

・楽器、手具等の保持および使い方

演奏・演技を行うにあたり楽器や手具等が適切に使われているか。

リカバリー能力

ミスに対して適切な対応ができているかどうか。

	段階 1 (B0X1)	段階 2 (B0X2)	段階 3 (B0X3)	段階 4 (B0X4)	段階 5 (B0X5)
	努力を要す	ふつう	良好	優良	優秀
l	6 0 未満	60~69	70~79	80~89	90~100

達成度と表現力

演技者の表現力がいかに優れているかを、カラーガードの技術を含め、個々のプレーヤーもしくはグループに関して判断する。(すべての動くセクションを対象としてサンプリングする)

列、および間隔のそろえ方

列をそろえるにあたり、その基準を理解しており、その上で揃えられているか。また、間隔(インターバル・ディスタンス) の取り方を理解しているか。

・ボディーワーク

演奏されている音楽に適した表現がなされているか。

手具等の表現

手具の扱い方や振付けが音楽に適した表現となっているか。

・ショーマンシップとコミュニケーション

観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。また、表現を通して観客との対話がなされているか。

段階 1 (B0X1)	段階 2 (B0X2)	段階 3 (B0X3)	段階 4 (B0X4)	段階 5 (B0X5)	
努力を要す	ふつう	良好	優良	優秀	
6 0 未満	60~69	7 0 ~ 7 9	8 0 ~ 8 9	9 0 ~ 1 0 0	
					合計

宝杏昌氏名		
→ ← / Y .		

演技の技術(カラーガードを含む) 審査基準(クライテリア)

	演技の技術(カフーカートを含む) 番金基準(クフィナリア)				
	基礎技術力	達成度と表現力			
段階 5	 ・姿勢、動作等のスタイルは、ほとんど統一されており洗練されている。 ・動作、タイミングが良くそろっている。 ・楽器、手具等の持ち方、操作の仕方がほとんど統一されており洗練されている。 ・ミスのリカバリーが早く正確である。 	 ・列や間隔の乱れがほとんどなく、あったとしても気にならない程度である。 ・ボディーワークの表現は、ほとんどが音楽に適しており、すばらしい。 ・手具の表現は、ほとんどが音楽に適しており、すばらしい。 ・ショーマンシップが高く、音楽に最も適した表現が良くできており、アピール度も高く感銘できる。 			
段階 4	 ・姿勢、動作等のスタイルは多くの場面で統一されており演奏 演技するのに適した動作になっているがばらつきが生じる部分もある。 ・動作、タイミングは多くの場面でそろっているが、細かいところでばらつきが生じる部分もある。 ・楽器、手具等の持ち方、操作の仕方は多くの場面で統一されており、かつ演奏演技に適しているが、ばらつきが生じる部分もある。 ・ミスのリカバリー速度は普通であるが、正確である。 	 ・列や間隔の乱れがあまりなく整理されているが、クリーニング 不足の部分もある。 ・ボディーワークの表現は、多くの場面で音楽に適しているが時 折乱れる事がある。 ・手具の表現は、多くの場面で音楽に適しているが時折乱れる 事がある。 ・多くの場面で音楽に適した表現ができており、アピール度も高 いが違和感を感じる部分もある。 			
段階 3	 ・姿勢、動作等のスタイルを統一しようとしている基準は認識でき、演奏演技するのに、ある程度適した動作になっているがふぞろいな部分が見受けられる。 ・動作、タイミングは理解しているようだが、ふぞろいな部分が見受けられる。 ・楽器、手具等の持ち方、操作の仕方の基準は認識でき、演奏演技には、ある程度適しているがふぞろいな部分が見受けられる。 ・ミスのリカバリーが遅い。 	 ・列や間隔を揃えようとする意識は見受けられるがクリーニング不足である。 ・ボディーワークの表現は、ある程度音楽に適しているが違和感な部分も見受けられる。 ・手具の表現は、ある程度音楽に適しているが違和感な部分も見受けられる。 ・音楽をある程度意識しているが、アピール度が十分でないため表現不足を感じる。 			
段階 2	 ・姿勢、動作等のスタイルにおいて統一しようとしている基準は見受けられるが、不揃いな部分が目立ち統一感が弱い。また演奏演技に適した動作になりきれていない。 ・動作、タイミングを合わせようとする努力は時折見受けられるが不十分である。 ・楽器、手具等の持ち方、操作を統一しようとする基準は見受けられるが、不揃いがかなり目立つ。 ・ミスを自覚しているがリカバリーしていない。 	 ・列や間隔を揃えようとする意識が弱いためきれいにそろわない。 ・ボディーワークの表現は、不揃いな部分が目立ち、表現力に欠ける。 ・手具の表現は、ふぞろいが目立ち、表現力に欠ける。 ・音楽に合わせて表現しようとする意識やアピール度が弱い。 			
段 階 1	 ・姿勢、動作等のスタイルが全く統一されていない。また演奏 演技するのに適した動作になっていない。 ・動作、タイミングが全くバラバラである。 ・楽器、手具等の持ち方、操作の仕方が統一されておらず演 奏演技するのに適していない。 ・ミスしている自覚がない。 	 ・列や間隔をそろえようとする意識があるように見受けられない。 ・音楽に合わせて表現しようとする意識があるように見受けられない。 			



一般の部

No. 団体名

2019年12月15日(日) 於:さいたまスーパーアリーナ

音楽と視覚の調和

作品の全体的調和

ショ―全体のコーディネーションを音楽的な要素と視覚的な要素との結びつきをふまえて総合的に判断する。

・コーディネーション

ショ―の流れに「緩急」「強弱」「喜怒哀楽」や「起承転結」を感じさせる変化があるか。

また、無理のない流れがあるか。

クライマックスが表現されているか。

各セクションの組合せに調和や変化が感じられるか。

音楽と視覚の調和

音楽と視覚が調和されているか。

•独創性と多様性

作品が独創性に優れ、なおかつ多様性に富んでいるか。

努力を要す ふつう 良好 優良 優秀
60~69 70~79 80~89 90~100

作品の解釈と表現

ショ―全体の解釈と表現を音楽的な要素と視覚的な要素の結びつきをふまえて総合的に判断する。

・表現の幅と質

作品が意図するところを理解し強弱や緩急、喜怒哀楽などの表現に幅をもたせているか。また、それらを高めようとしているか。

・ミュージシャンシップとショーマンシップ

観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

また、観客とのコミュニケーション(伝達)が良好か。

•完成度

内容を把握し、ミスやエラーのない演奏・演技になっているか。

表現の幅と質が作品の意図するところを理解したものとなっているか。また強弱や緩急、喜怒哀楽などの表現が完成したものとなっているか。

段階 1 (B0X1)段階 2 (B0X2)段階 3 (B0X3)段階 4 (B0X4)段階 5 (B0X5)努力を要すふつう良好優良優秀6 0 未満6 0 ~ 6 97 0 ~ 7 98 0 ~ 8 99 0 ~ 1 0 0	努力を要す
---	-------

^	= 1	
~	=+	-
$\overline{}$	a 1	

審査員氏名

音楽と視覚の調和 審査基準(クライテリア)

	百栄と悦見の調和・番宜奉牛(グブイナリア)			
	作品の全体的調和	作品の解釈と表現		
	・作品全体において調整が行き届いており、違和感はほとんど無い。 ・作品全体の構成、処理は、バラエティーに富んでおり、部	・演奏・演技者による作品の理解は充分かつ高度で、観客とのコミュニケーションは常に円滑で密度も高く行われている。 ・ほとんどの場面で演奏・演技者の集中力は常に深く継続してお		
	分的な処理にも多様性が感じられる。	り、観客は作品の意図を充分理解し楽しむ事が出来る。		
£Л.	・色彩的にも豊かであり、かつ音楽との整合性もあり効果的である。	・演奏・演技者による感情表現は幅広く、質的にもバラエティー豊かに表され、観客を度々魅了し感動させる。		
段階 5	・場面ごとに多くの、聴かせ所や見せ場があり、それらが大変うまく強調されており、非常に効果的である。 ・作品全体を通して常に平均的なレベル以上の効果が生み	・ほとんどの場面で演奏・演技者のミュージシャンシップやショーマンシップが常に強く発揮され、観客が感動する場面が度々ある。		
	・作品主体を通じて常に平均的なレベル以上の効果が生み 出されており、長い時間観客を引き付ける事に成功してい る場面が多々ある。	`○ •		
	・ほとんどの場面で、解釈、処理が独創的かつ高度であり、 それらが効果に密接に結びついている。			
	・作品全体において、多くの場面で調整されているが、違和 感がある部分もある。	・演奏・演技者による作品の理解は充分で、観客とのコミュニケー ションは高いが、伝わりきらない場合がある。		
	・作品全体の構成、処理にバラエティ―も感じられるが、平 淡に感じられる部分もある。	・多くの場面で演奏・演技者の集中力は安定しているが、作品の 意図が継続的に伝わらない場合もある。		
段	・色彩的に豊かであり、音楽との整合性も感じられるが、違 和感がある部分もある。	・演奏・演技者による感情表現の幅は広く、観客が心を動かされる場面も少なくないが、伝わらない場合もある。		
段階 4	・場面ごとに聴かせ所や見せ場があり、効果が強調されて いるが、効果が限定的である。	・多くの場面で演奏・演技者のミュージシャンシップやショーマンシップは発揮されているが、観客を感動させられない場合もある。		
	・多くの場面で継続して平均以上の効果を発揮している部分があり、観客を引き付ける事もあるが、それぞれが繋がらない。			
	・随所に独創的な解釈、処理が感じられるが、それが直接 効果に繋がらない場合も少しある。			
	・作品全体において調整されている様に感じられるが、調整 が不足している部分も少なくない。	・演奏・演技者による作品の理解は得られているようだが、観客と のコミュニケーションは十分ではない。		
	・作品全体の構成、処理にバラエティーも感じられるが、平 淡に感じられる部分もある。	・ある程度、演奏・演技者の集中力を感じる部分もあるが、作品 の意図が継続的に伝わらない。		
段階 3	・やや、全体的な色彩が単調で、音楽との整合性も不足している。	・演奏・演技者は作品が持つ感情表現も感じさせているが、観客 の感情を操作するには至らない。		
	・聴かせ所や見せ場と感じられる部分もあるが、充分な効果 を出し得てはいない。	・ある程度、演奏・演技者のミュージシャンシップやショーマンシップは発揮されているが、観客を感動させられない場合もある。		
	・効果的と思える部分はあるが、断片的であり、長続きしな い場合が多い。			
	・独創的な解釈、処理がなされていると感じられる部分があるが、多くはない。			
	・作品全体において調整されている部分が不足しており、違 和感も多く感じられる。	・演奏・演技者による作品の理解は不足しており、観客とのコミュ ニケーションも不十分である。		
段階	・作品全体の構成、処理、色彩が平坦に感じられる。 ・聴かせ所や見せ場と感じられる部分が不足しており、その	・演奏・演技者の集中力が不足しており、作品の意図が伝わらない。		
2	・暖かせ所や見せ場と感じられる部分が不足しており、その多くが効果を発揮していない。	・演奏・演技者による感情表現はあまり感じられない。		
段階	・作品全体が調整されている様には感じられず、雑然として いる。	・演奏・演技者による作品の理解は未熟で、観客に対する意識も希薄である。		
1				



一般の部

No. 団体名

2019年12月15日(日) 於:さいたまスーパーアリーナ

演奏の調和

演奏の音楽性

演奏の音楽性がいかに優れているかを、管楽器・打楽器の両面にわたって、演奏者全体もしくは各セクションに関して判断する。

•表現力

音楽的表現がいかに幅広く多様で音楽の内容をよく理解しているか。

・フレージング

曲想に合ったフレージングがなされているか。

統一されているか。

・ダイナミックレンジ

強弱が適切かつ統一されているか。

その範囲がいかに幅広いか。

・バランスとブレンド

バランスとブレンドのコントロールがどのように行なわれているか。

・テンポ

テンポの維持・コントロールがどの程度正確かつ適切に行なわれているか。

60未満 60~69 70~79 80~89 90~100

演奏の質と技術

演奏の質や、全体的な技術がいかに優れているかを、管楽器・打楽器両面にわたって、演奏者全体もしくは各セクションに関して判断する。

・全体的な音質

全体的な音質が美しいか。

・チューニング

チューニングが的確になされているか。

・イントネーション

イントネーションがどれだけ揃っているか。

・リズミックコントロール

リズミックコントロールが適切にされているか。

・タイミング

タイミングが正確に揃っているか。

・フォーカス(音の方向性・指向性)

フォーカスコントロールがどの程度適切で、かつ揃っているか。

段階 1 (B0X1) 努力を要す 6 0 未満	段階 2 (B0X2) ふつう 6 0 ~ 6 9	段階 3 (B0X3) 良好 7 0 ~ 7 9	段階 4 (B0X4) 優良 8 0 ~ 8 9	段階 5 (B0X5) 優秀 90~100	
					合計

審杏員氏名		
$\longrightarrow \land \vdash \land $		

演奏の調和 審査基準(クライテリア)

	スタンの11 街上	
	演奏の音楽性	演奏の質と技術
段階 5	・音楽表現は常に幅広く深みがあり、内容も多様である。 ・フレージングは常に曲想を的確に反映したもので、乱れはほとんど感じられない。 ・バランスとブレンドのコントロールは常に適切に整えられている。 ・テンポは常に正確に維持され、その変化のコントロールも柔軟かつ確実で乱れない。	 ・音質は常に美しく整えられ、乱れが感じられることはほとんどない。 ・チューニングは正確で、ピッチが不ぞろいな部分はほとんどない。 ・イントネーションは良くそろえられており、違和感はほとんどない。 ・リズミックコントロールはほとんどの場面で適切に行われ、自然な流れが保たれる。 ・タイミングに対する理解が的確で、乱れることはほとんどない。 ・フォーカスコントロールは常に適切で、音がバラバラの向きに飛ぶようなことはほとんどない。
段階 4	 ・音楽表現は多くの場面で適切になされているが、幅や深みに不足を感じる部分もある。 ・フレージング多くの場面で曲想を反映しているが、乱れを感じる部分もある。 ・ダイナミックレンジは広く、多くの場面でコントロールされているが、乱れを感じる部分もある。 ・テンポは維持され、その変化も多くの場面でコントロールされているが、乱れる場合もある。 	 ・音質は多くの場面で美しく整えられているが、乱れが感じられることもある。 ・チューニングは概ね正確だが、ピッチがふぞろいに感じられる部分もある。 ・イントネーションは概ねそろっているが、違和感がある部分もある。 ・リズミックコントロールは多くの場合適切だが、流れが損なわれる場面もある。 ・フォーカスコントロールは多くの場面で良好だが、音の向きががまとまりに欠け、やや拡散することがある。
段階 3 段階 2	 ・音楽表現はある程度なされているが、幅広さに欠け、単純に感じられる。 ・フレージングはある程度整えられているが、不足を感じる。 ・ダイナミックレンジはやや狭く、コントロール不足を感じる。 ・バランスとブレンドはある程度整えられているが、不足を感じる。 ・テンポはある程度維持されているが、その変化をコントロールしきれずに乱れる。 ・音楽的な表現が不足しており、表現も単調である。 ・ダイナミックレンジは狭く、あまりコントロールされていない。 	 ・音質はある程度美しく整えられているが、不足を感じる。 ・チューニングはある程度そろっているが、ピッチがふぞろいな部分も多い。 ・イントネーションはある程度そろっているが、違和感がある部分も多い。 ・リズミックコントロールはある程度なされているが、不自然さを感じる部分が多い。 ・フォーカスコントロールはある程度なされているが、音がバラバラと拡散する時間が長い。 ・音質を美しく保とうとする努力が不足している。 ・チューニングは大雑把であり、ピッチがそろわない場面も多い。
段階 1	 ・フレージングはあまり整えられておらず、ふぞろいである。 ・音楽的に何かを表現しようとしているようには感じられない。 ・フレージングやダイナミクスが設定されているようには聴こえない。 	・リズムやタイミング、フォーカスの理解が不足している。・音質を美しく保とうとしているようには聴こえない。・チューニングやリズムは不正確で、そろっていない。



一般の部

No. 団体名

2019年12月15日(日) 於:さいたまスーパーアリーナ

演技の調和

視覚要素(フォーム、ボディ、手具)

演技の構成がいかに優れているかを、演技者全体もしくは各セクションに関して判断する。

- 統一性
- 視覚的構成がいかにまとまっているか。
- ・視覚的音楽性(フレージング、解釈、強調) 視覚的構成がいかに音楽的であるか。
- •表現力

視覚的表現がいかに豊かであるか。

•多様性

視覚的構成がいかに多様であるか。

演技の質と技術

演技の質や全体的な技術がいかに優れているかを、演技者全体もしくは各セクションに関して判断する。

- ·同一性
- 同じ動作がいかに同じようにできているか。
- •全般的技術
- 全般的な動作の技術がいかに優れているか。
- ・アーティキュレーション
- 動作のアーティキュレーションがいかにそろっているか。
- •鮮明度
- 動作がいかにはっきりと、かつ明瞭に行なわれているか。
- ・リカバリー
- リカバリーがいかに早いか。

段階 1 (B0X1)	段階 2 (B0X2)	段階 3 (B0X3)	段階 4 (B0X4)	段階 5 (B0X5)	
努力を要す	ふつう	良好	優良	優秀	
6 0 未満	60~69	7 0 ~ 7 9	8 0 ~ 8 9	9 0~1 0 0	
					合計

審杏員氏名		
+ $ -$		

演技の調和 審査基準(クライテリア)

		巻字(ソノ1 ナリナ) ⊤		
	視覚要素(フォーム、ボディ、手具)	演技の質と技術		
段階 5	 ・統一性は十分で常にまとまっており、乱れる部分はほとんどない。 ・視覚的構成に音楽が十分に反映しており、違和感を覚えることは少ない。 ・手具が効果的に使用され、かつ音楽を視覚的に表現する効果を十分に発揮しており、違和感があることは少ない ・視覚的に豊かな表現がなされ、不足に感じる部分が少ない。 ・多様性に大変富んでおり、状態の変化も常に継続して行なわれている。 	 ・常に高い動作の同一性を保ち、不揃いな部分は少ない。 ・ほとんどの場面で継続した技術の優秀性を発揮し、未熟さを感じる部分は少ない。 ・アーティキュレーションは十分整っており、不ぞろいな部分は少ない。 ・動作は常に鮮明で、はっきりとしている。 ・ほとんどの場合、リカバリーは素早く、的確になされる。 		
段階 4	 ・多くの場面で視覚的に統一され、まとまっているが、 乱れる部分が時々気になる。 ・多くの場面で視覚的構成に音楽を反映している部分が見られるが、違和感を覚える場面も少しある。 ・多くの場面で手具などが効果的に使用され、音楽を反映した表現が見られるが、違和感があることが少しある。 ・多くの部分で豊かな視覚的表現がなされるが、もの足りなさを覚える部分も少しある。 ・多様性は豊かではあるが、単調な部分もある。 	 動作は概ね同一性を保っているが、不揃いな部分もある。 多くの場面で技術の優秀性を示すが、未熟さを感じる場面もある。 アーティキュレーションは概ねそろっているが、気になる部分もある。 動作は鮮明だが、はっきりしない部分もある。 多くの場合、リカバリーは迅速にされるが、時折時間が掛かる場合や不完全なことがある。 		
段階 3	 ・ある程度、視覚的に統一されているが、まとまりのない部分も少なくない。 ・ある程度、視覚的構成に音楽を反映している部分が見られるが、全体的に不足している。 ・ある程度、手具などの効果的な音楽表現があるが、もの足りない。 ・豊かな表現力を感じられる部分もあるが、全体的にもの足りない。 ・多様に変化する部分も感じられるが、単調な状態が多い。 	 ・ある程度、動作は揃っているが、不揃いな部分が多い。 ・高度な技術の習得を示す部分を感じられるが、全体的に未熟さが見える。 ・整ったアーティキュレーションを感じる部分もあるが、不十分な場面が多い。 ・鮮明な動作を感じる部分もあるが、はっきりしないことが多い。 ・リカバリーはされるが、時間が掛かることが多く、不完全な場合が少なくない。 		
段階 2	 ・統一感が不足しており、まとまりも感じられない。 ・視覚的構成に音楽性を感じられる部分はあまりない。 ・手具などの表現に音楽性を感じる部分が少なく、その効果も感じられない。 ・表現力を感じることができず平坦である。 	 ・動作が揃っている部分が少なく、それぞれの動きも十分ではない。 ・良好な技術を示すことが少なく、初歩的な範囲から脱しきれていない。 ・アーティキュレーションがそろっておらず、不鮮明である。 		
段 階 1	・全てにおいて不ぞろいで、まとまりがない。	・同じ内容の動作をしているように見える場面がない。 ・初歩的な動作の技術の習得が不足している。		



一般の部

No. 団体名

2019年12月15日(日) 於:さいたまスーパーアリーナ

管楽器の技術

基礎技術力

管楽器セクションの基礎技術力がいかに優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

- •呼吸法
- 十分に息が吸えているか。安定したブレスコントロールができているか。必要な長さまできちんと息を使えているか。
- •音管
- 無理のない自然な響きが得られているか。それぞれの楽器の特性に合った音色をつくっているか。
- •音程
- チューニングが正確になされているか。正しいピッチにより旋律、和音とも自然な響きが得られているか。
- ・アーティキュレーション
- 曲想に合っているか。十分な多様性があるか。よく統一されているか。
- テンポ及びタイミング
- ある一定のテンポ感を安心して感じることができるか。テンポ・タイミングがどの程度正確か。

段階 1 (B0X1) 段階 2 (B0X2) 段階 3 (B0X3) 段階 4 (B0X4) 段階 5 (B0X5) 努力を要す ふつう 良好 優良 優秀 60~69 70~79 80~89 90~100					
	段階 1 (B0X1)	段階 2 (B0X2)	段階 3 (B0X3)	段階 4 (B0X4)	段階 5 (B0X5)
60未満 60~69 70~79 80~89 90~100	努力を要す	ふつう	良好	優良	優秀
	60未満	60~69	70~79	80~89	90~100

表現力

管楽器セクションの表現力がいかに優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

- 表現方法とフレージング
- 音楽的表現がいかに幅広く、多様で音楽の内容をよく理解しているか。
- 曲想に合ったフレージングがなされ、それが統一されているか。
- ・ダイナミックレンジ
- 音量に関しての解釈が統一されているか。曲想に合った強弱の付け方ができているか。
- ・バランスとブレンド
- 全体を通じて高音楽器から低音楽器までバランス良くブレンドされているか。
- 旋律やソロとハーモニーのバランスが良く、明瞭であるか。
- ・スタイル
- 楽曲のジャンル的な特徴や、楽曲そのものの個性を演奏者がいかに理解し表現しているか。
- ・ミュージシャンシップ
- 観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

段階 1 (B0X1) 努力を要す 6 0 未満	段階 2 (B0X2) ふつう 6 0 ~ 6 9	段階 3 (B0X3) 良好 7 0 ~ 7 9	段階 4 (B0X4) 優良 8 0 ~ 8 9	段階 5 (B0X5) 優秀 9 0 ~ 1 0 0	
					合計

審杏員氏名		
# P H I \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		

管楽器の技術 審査基準(クライテリア)

	官栄命の技術・番箕基準(グブイナリア)				
	基礎技術力	表現力			
段階 5	 ・呼吸法や発音、リリースはほとんど完璧に統一されている。 ・常にリラックスした状態で安定したブレスサポートを駆使し、強弱・音域・音色変化の高度な要求にも明瞭かつ瞬時に対応している。 ・音質は豊かで繊細かつ力強い。 ・各楽器の特性に合った音色を理解しており、乱れることはほとんどない。 ・アンブシュアの安定により自然な響きが得られており、多彩な音色を持っている。 ・音程はほとんどの場面で完璧に維持され、確固たるイヤートレーニングに支えられた正確なピッチコントロールが美しいイントネーションとハーモニーを生み出している。 ・アーティキュレーションはほとんどの場面で統一され、バリエーションも豊富で、曲想に合わせて適切に使用されている。 ・テンポやタイミングに関する解釈はほとんどの場面で統一されており、一定のテンポ感を安心して感じることができる。 	・表現方法は多彩で幅広く、楽曲に関する深い理解と音楽性をほとんどの場面において感じ取ることができる。また、フレージングは音楽的で良く統一されている。 ・ダイナミックレンジは非常に幅広く、ほとんど乱れることなくコントロールされている。また、強弱の設定も適切で解釈もほぼ統一されている。 ・バランスは常に維持され、ppやffを演奏する場合でも個々の音が飛び出すことはほとんどなく、豊かにブレンドしている。また、メロディーと伴奏のバランスも良い。 ・楽曲のスタイルや特徴を十分に理解している。また、音楽の個性を活かした表現を試み、ほとんどの場面で成功している。 ・ミュージシャンシップに満ちており、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が強く感じられる。また、ほとんどの場面において奏者の意図する内容が明瞭に伝わる。			
段階 4	 ・呼吸法や発音、リリースは多くの場面で統一されているが、難しいフレーズを演奏する場合などにブレスサポートの乱れを感じることがある。 ・音質は多くの場面において良好で楽器本来の音色が得られているが、ダイナミクス・音域等の高度な要求がある時に炸裂音や音色の劣化がみられることがある。 ・音程は多くの場面で良く維持されているが、イントネーションやハーモニーに乱れを感じることもある。 ・アーティキュレーションは多くの場面で統一されているが、違和感がある部分もある。 ・テンポやタイミングに関する解釈は多くの場面で統一されているが、乱れを感じることもある。 	・表現方法は幅広いが、時折楽曲の理解が不十分に感じられる場面もある。また、フレージングも音楽的で適切だが、それらが損なわれたり、乱れたりする場面もある。 ・ダイナミックレンジは広く、多くの場面でコントロールされているが、乱れを感じる部分もある。また、強弱の設定は概ね適切だが、不自然に感じることもある。 ・バランスは多くの場面で維持されるが、個々の音がパートにブレンドしないこともある。また、メロディーと伴奏のバランスも概ね良いが、メロディーが埋もれてしまうこともある。 ・楽曲のスタイルや特徴を概ね理解し、その個性を活かした表現を試みているが、成功しないこともある。 ・ミュージシャンシップを感じることができ、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が感じられるが、奏者の意図する内容が伝わり切らないこともある。			
段階 3	 ・呼吸法や発音、リリースはある程度そろっているが、ブレスサポートが乱れるため不安定な響きや荒々しい音色がしばしば聞かれる。 ・音質を良好に維持しようとする姿勢は感じられるが、f(フォルテ)では荒々しくなり、p(ピアノ)では弱々しい響きになりやすく、音色にバラつきも生じる。 ・音程はある程度そろえられているが、ピッチコントロールが弱く、イントネーションやハーモニーがしばしば乱れる。 ・アーティキュレーションをそろえる意志は感じられるが、統一感が弱く、不明瞭な印象を受ける。 ・テンポやタイミングを合わせる意志は感じられるが、その方法やテクニックの問題から乱れを生じる。 	・表現方法にある程度の幅を感じ取れるが、楽曲の理解に不足を感じる。また、フレージングは音楽的にやや不十分で乱れることが多い。 ・ダイナミックレンジはやや狭く、コントロール不足も目立つ。また、強弱の設定はある程度なされているが、解釈に統一感がなく、違和感がある。 ・バランスはある程度維持されているが、個々の音がパートにブレンドしないことが多い。また、バランスの問題からメロディーが不明瞭に感じられる場面が多い。 ・楽曲のスタイルや特徴をある程度理解しているように思われるが、その表現は成功しないことが多い。 ・ミュージシャンシップはやや弱く、観客にその音楽をアピールしようとはするが意図する内容が伝わり切らない。			
段階 2	 ・呼吸法に関する理解が不十分で、ムダな力みのため、必要なブレスサポートが得られていない。また、発音やリリースをそろえる意識も弱い。 ・音質を良好に維持しようとする意志が弱く、ブレスやアンブシュアの不安定さによる個々の音色のバラつきも目立つ。 ・チューニング自体が不完全であり、耳を使って一定の音程を保つトレーニングが不足している。 ・アーティキュレーションに関する理解が不十分で、テンポやタイミングをそろえる意識やトレーニングも不足している。 	 ・表現方法の幅が狭く、楽曲の理解も浅く不十分である。また、演奏の努力は認められるが音楽的な表現が不足しており、フレージングに関する認識もあまり感じられない。 ・ダイナミックレンジは狭く、あまりコントロールもされていない。また、強弱の設定も不明瞭である。 ・バランスを維持しようとする意識が希薄なため、メロディーラインが不明瞭である。また、個々の音の飛び出しが著しく目立ち、パートにブレンドしない。 ・楽曲のスタイルや特徴に関する理解が浅く、不十分である。また、奏者の意図も観客にうまく伝わらない。 			
段 1	 ・呼吸法に統一性が認められず、楽器本来の音色が聞かれない。 ・ブレストレーニングやアンブシュアの改善が必要である。 ・チューニングができておらず、音程を合わせようとしているようには感じられない。 ・テンポやタイミングに関する個々の理解が認められず、演奏がまちまちでそろわない。 	 ・表現方法やフレージングに関して、統一された解釈があるようには感じられない。 ・ダイナミクスやバランスに関する認識があるようには感じられない。 ・楽曲に関する理解が感じられず、何かを伝えようとする姿勢が見受けられない。 			



一般の部

No. 団体名

2019年12月15日(日) 於:さいたまスーパーアリーナ

打楽器の技術

基礎技術力

打楽器セクションの基礎技術力がどの程度優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

奏法の統一と適応

グリップ、フォーム、スティックハイトがどの程度統一されているか。

音楽の音作り

楽器本来の良い音が出せているかどうか。(奏法的に導き出せているか。調整で導き出せているか。) 楽曲に対し、適した楽器、道具(スティック等)を使用しているか。会場の音響を考慮した音作り(調整)がされているか。 各楽器の音程、音域がバランス良く決められているか。

·ピッチの正確さ

同じ楽器間で個々のピッチがどの程度正確か。楽曲の特徴に配慮した音程、音域になっているか。

アーティキュレーションの明確さ

同じ内容の演奏をしていると思われる演奏が、どの程度同じように演奏されているか。 演奏上のミス、くせ、手順、アクセント、中断等がいかに少ないか。

テンポ及びタイミング

ある一定のテンポ感を安心して感じることができるか。テンポ、タイミングがどの程度正確か。

|--|

表現力

打楽器セクションの表現力がどの程度優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

・表現方法とフレージング

音楽的表現がいかに幅広く多様で、音楽の内容をよく理解しているか。また、曲想にあったフレージングがなされているか、統一されているか。

・ダイナミックレンジ

音量に関しての解釈が統一されているか。 曲想を考慮した強弱の付け方ができているか。

・バランス

各楽器間の音量のバランスが、的確に決められているか。

・スタイル

楽曲のジャンル的な特徴や、楽曲そのものの個性を、演奏者がどの程度理解し表現しているか。

・ミュージシャンシップ

観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

段階 1 (B0X1)	段階 2 (B0X2)	段階 3 (B0X3)	段階 4 (B0X4)	段階 5 (B0X5)	
努力を要す	ふつう	良好	優良	優秀	
6 O 未満	6 0~6 9	7 0 ~ 7 9	8 0~8 9	9 0~1 0 0	
					合計

	醛 查員氏名	
\$ 省目 下名		
6 首目氏名		

打楽器の技術 審査基準(クライテリア)

	基礎技術力	表現力
段階 5	・奏法はほぼ完全に統一されており楽曲に対する配慮も適切で個人差を見つけるのはむずかしい。また個々の音色、音量に差がほとんどなく、全体的なアーティキュレーションの明確性に大きく貢献している。 ・楽器の特性を引き出す音作りがほぼ完璧になされており、音域が効果的に設定されている。 ・同じ楽器間でのチューニングはほとんど完璧に調整されており、楽曲に対する配慮も適切で違和感な場面はほとんどない。 ・楽譜の解釈はほぼ完全に統一され、アーティキュレーションのミスはほとんど感じられない。 ・テンポ、タイミングに関する解釈が統一されておりこれらのミスはほとんどない。	・表現方法は多彩で幅広く、楽曲に対する深い理解と音楽性をほとんどの場面において感じ取ることができる。フレージングは音楽的で良く統一されている。 ・ダイナミックレンジは非常に幅広く、ほとんど乱れることなくコントロールされている。また、強弱の設定も適切で解釈もほぼ統一されている。 ・バランスは常に維持され、ppやffを演奏する場合でも乱れることはほとんどない。また、パートやセクションとしての豊かなサウンドを形成している。 ・楽曲のスタイルや特徴を充分に理解している。音楽の個性を活かした表現を試み、ほとんどの場面で成功している。 ・ミュージシャンシップに満ちており、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が強く感じられる。また、ほとんどの場面において奏者の意図する内容が明瞭に伝わる。
段階 4	 ・奏法は多くの場面で統一され、楽曲に対する配慮もなされており個人差はほとんど見受けられない。また個々の音色、音量等も良く揃っているが、統一性の不完全さから、時折乱れを感じることがある。 ・楽器の特性を引き出す音作りがある程度なされており、音域は概ねバランス良く設定されている。 ・楽譜の解釈は多くの場面で統一されているが、アーティキュレーションのミスが時折ある。 ・同じ楽器間でのチューニングは概ねそろっているが、楽曲に対し適切でない場合が時折、見受けられる。 ・テンポ、タイミングに関する解釈は多くの場面で統一されているが、時折乱れを感じることがある。 	 ・表現方法は幅広いが、時折楽曲の理解が不十分に感じられる場面もある。また、フレージングも音楽的で適切だが、それらが損なわれたり、乱れたりする場面もある。 ・ダイナミックレンジは広く、多くの場面でコントロールされているが、乱れを感じる部分もある。また、強弱の設定は概ね適切だが、不自然に感じることもある。 ・バランスは多くの場面でうまく維持されるが、やや乱れてパートやセクションでうまくそろわないこともある。 ・楽曲のスタイルや特徴を概ね理解し、その個性を活かした表現を試みているが、成功しないこともある。 ・ミュージシャンシップを感じることができ、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が感じられるが、奏者の意図する内容が伝わり切らないこともある。
段階 3	・奏法はある程度、統一されているが、グリップ、フォーム、スティックハイト等の調整に不足を感じる。 ・楽器の特性をある程度引き出しているが、若干の違和感がある。 ・楽譜の解釈はある程度統一されているが、アーティキュレーションにミスが生じる。 ・同じ楽器内でのチューニングはある程度そろえられているが十分ではない。 ・テンポ、タイミングに関する解釈はある程度統一されているが、不正確な部分が少なくない。	・表現方法にある程度の幅を感じ取れるが、楽曲の理解に不足を感じる。フレージングは音楽的にやや不十分で乱れることが多い。 ・ダイナミックレンジはやや狭く、コントロール不足も目立つ。強弱の設定はある程度なされているが、解釈に統一感がなく違和感がある。 ・バランスはある程度維持されているが乱れも目立ち、パートやセクションでそろわないことが多い。 ・楽曲のスタイルや特徴をある程度理解しているように思われるが、その表現に成功しないことが多い。 ・ミュージシャンシップはやや弱く、観客にその音楽をアピールしようとはするが意図する内容が伝わり切らない。
段階 2	 ・奏法に関する基準が不十分で、グリップ、フォーム、スティックハイト等が不揃いなため、個々の音色、音量に違いが出てしまっている。 ・使用している楽器の特性を引き出そうとする努力が不足しており、楽曲の特徴を考慮した楽器の音色に不自然さを感じる。 ・楽譜の内容に関する解釈が不十分で、ミスが多いため明瞭さが不十分である。 ・同じ楽器内でのチューニングにバラツキが感じられる。 ・テンポ、タイミングに関する解釈が不十分で、正確さに欠ける。 	 表現方法の幅が狭く、楽曲の理解も浅く不十分である。演奏の努力は認められるが音楽的な表現が不足しており、フレージングに対する認識もあまり感じられない。 ・ダイナミックレンジは狭く、あまりコントロールもされていない。強弱の設定も不明瞭である。 ・バランス設定が的確に決められていないため、各楽器のサウンドにバラツキを感じる。 ・楽曲のスタイルや特徴に関する理解が浅く、不十分である。奏者の意図も観客にうまく伝わらない。
段階 1	 ・奏法に関して基準があるように見受けられない。またグリップ、フォーム、スティックハイト等がふぞろいで、統一感が感じられない。 ・使用している楽器の特性が全く引き出されていない。また、楽曲の特徴を考慮した楽器の音色が引き出せていない。 ・楽譜の内容に関して個々の解釈、演奏がまちまちで明瞭さがない。 ・同じ楽器内でのチューニングが全くそろっていない・テンポ、タイミング等の解釈に個人差がある。 	・表現方法やフレージングに関して、統一された解釈があるようには 感じられない。 ・ダイナミクスやバランスに対する認識があるようには感じられない。 ・楽曲に対する理解が感じられず、何かを伝えようとする姿勢が見受 けられない。



一般の部

No. 団体名

2019年12月15日(日) 於:さいたまスーパーアリーナ

動きの技術

基礎技術力

演技者の基礎技術力がいかに優れているかを、個々のプレーヤーもしくはグループに関して判断する。(すべての動くセクションを対象としてサンプリングする)

スタイルの統一と適応

フォワードマーチ、リアマーチ、マークタイム、停止姿勢、ターン方法等が統一されているか。また、その動作が演奏することに適しているか。

動作の転換とタイミング

全ての連続動作が正確でスムーズに行われているか。

・楽器・手具等の保持および使い方

演奏・演技を行うにあたり楽器や手具等が適切に使われているか。

・リカバリー能力

ミスに対して適切な対応ができているかどうか。

段階 1 (B0X1)	段階 2 (B0X2)	段階 3 (B0X3)	段階 4 (B0X4)	段階 5 (B0X5)
努力を要す	ふつう	良好	優良	優秀
6 0 未満	60~69	70~79	80~89	90~100

達成度と表現力

演技者の表現力がいかに優れているかを、個々のプレーヤーもしくはグループに関して判断する。(すべての動くセクションを対象としてサンプリングする)

列、および間隔のそろえ方

列をそろえるにあたり、その基準を理解しており、そのうえで揃えられているか。また、間隔(インターバル・ディスタンス) の取り方を理解しているか。

・ボディーワーク

演奏されている音楽に適した表現がなされているか。

•手具等の表現

手具の扱い方、また、振付けが音楽に適した表現となっているか。

・ショーマンシップとコミュニケーション

観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。また表現を通して観客との対話がなされているか。

段階 1 (B0X1)	段階 2 (B0X2)	段階 3 (B0X3)	段階 4 (B0X4)	段階 5 (B0X5)	
努力を要す	ふつう	良好	優良	優秀	
6 0 未満	6 0 ~ 6 9	7 0 ~ 7 9	8 0 ~ 8 9	9 0~1 0 0	
					合計

審査員氏名

動きの技術 審査基準(クライテリア)

	基礎技術力	達成度と表現力
段階 5	 ・姿勢、動作等のスタイルは、ほとんど統一されており洗練されている。 ・動作、タイミングが良くそろっている。 ・楽器、手具等の持ち方、操作の仕方がほとんど統一されており洗練されている。 ・ミスのリカバリーが早く正確である。 	 ・列や間隔の乱れがほとんどなく、あったとしても気にならない程度である。 ・ボディーワークの表現は、ほとんどが音楽に適しており、すばらしい。 ・手具の表現は、ほとんどが音楽に適しており、すばらしい。 ・ショーマンシップが高く、音楽に最も適した表現が良くできており、アピール度も高く感銘できる。
段階 4	 ・姿勢、動作等のスタイルは多くの場面で統一されており演奏演技するのに適した動作になっているがばらつきが生じる部分もある。 ・動作、タイミングは多くの場面でそろっているが、細かいところでばらつきが生じる部分もある。 ・楽器、手具等の持ち方、操作の仕方は多くの場面で統一されており、かつ演奏演技に適しているが、ばらつきが生じる部分もある。 ・ミスのリカバリー速度は普通であるが、正確である。 	 ・列や間隔の乱れがあまりなく整理されているが、クリーニング不足の部分もある。 ・ボディーワークの表現は多くの場面で音楽に適しているが、時折乱れる事がある。 ・手具の表現は多くの場面で音楽に適しているが、時折乱れる事がある。 ・多くの場面で音楽に適した表現ができておりアピール度も高いが、違和感を感じる部分もある。
段階 3	 ・姿勢、動作等のスタイルを統一しようとしている基準は認識でき、演奏演技するのに、ある程度適した動作になっているがふぞろいな部分が見受けられる。 ・動作、タイミングは理解しているようだが、ふぞろいな部分が見受けられる。 ・楽器、手具等の持ち方、操作の仕方の基準は認識でき、演奏演技には、ある程度適しているがふぞろいな部分が見受けられる。 ・ミスのリカバリーが遅い。 	 ・列や間隔をそろえようとする意識は見受けられるが、クリーニング不足である。 ・ボディーワークの表現はある程度音楽に適しているが、違和感な部分も見受けられる。 ・手具の表現は、ある程度音楽に適しているが、違和感な部分も見受けられる。 ・音楽をある程度意識しているが、アピール度が十分でないため表現不足を感じる。
段階 2	 ・姿勢、動作等のスタイルにおいて統一しようとしている基準は見受けられるが、不揃いな部分が目立ち統一感が弱い。また演奏演技に適した動作になりきれていない。 ・動作、タイミングを合わせようとする努力は時折見受けられるが不十分である。 ・楽器、手具等の持ち方、操作を統一しようとする基準は見受けられるが不揃いがかなり目立つ。 ・ミスを自覚しているがリカバリーしていない。 	 ・列や間隔をそろえようとする意識が弱いためきれいにそろわない。 ・ボディーワークの表現は、不揃いな部分が目立ち、表現力に欠ける。 ・手具の表現は、ふぞろいが目立ち、表現力に欠ける。 ・音楽に合わせて表現しようとする意識やアピール度が弱い。
段 階 1	 ・姿勢、動作等のスタイルが全く統一されていない。また、演奏演技するのに適した動作になっていない。 ・動作、タイミングが全くバラバラである。 ・楽器、手具等の持ち方、操作の仕方が統一されておらず演奏演技するのに適していない。 ・ミスしている自覚がない。 	・列や間隔を揃えようとする意識があるように見受けられない。・音楽に合わせて表現しようとする意識があるように見受けられない。



一般の部

No. 団体名

2019年12月15日(日) 於:さいたまスーパーアリーナ

カラーガードの技術

基礎技術力

カラーガードの技術力や表現力がいかに優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

・スタイル

カラーガード全体としてのスタイルが、統一されているか。

• 技術

身体に関すること、動作、手具の扱いを、理解し実施しているか。

・ポジション

演技中の身体、手具のポジションが統一されているか。

・タイミング

動作、手具操作のタイミングが一致しているか。

・トレーニンング方法

ショーを適切に表現するために必要なトレーニングがされているか。

・リカバリー

ミスに対して適切な対応ができているかどうか。

優秀	段階 4 (B0X4)	段階 3 (B0X3)	段階 2 (B0X2)	段階 1 (B0X1)
	優良	良好	ふつう	努力を要す
	8 0 ~ 8 9	7 O ~ 7 9	60~69	6 0 未満

表現方法

カラーガードの表現方法がいかに優れているかを判断する。

•表現

表現方法に独創性、一貫性があり、音楽を的確に理解しているか。

・身体の形や動き、手具の利用

ボディーワーク、ダンステクニック、フラッグ、ウェポン、その他の手具が噛み合っていて、その上で楽曲に合っているか。

•音楽性

ショーを構成する音楽に対して、適切に理解して反映しているか。

• 多様性

視覚的に表現する様々な要素が、多様であるか。

•表現方法

身体の形や動き、手具の利用、音楽性、多様性を表現する方法が適切であるか。

貢献度

表現方法が適切に完成されているか。

段階 1 (B0X1)	段階 2 (B0X2)	段階 3 (B0X3)	段階 4 (B0X4)	段階 5 (B0X5)	
努力を要す	ふつう	良好	優良	優秀	
6 0 未満	60~69	7 0 ~ 7 9	8 0 ~ 8 9	9 0 ~ 1 0 0	
					合計

審査員氏名

カラーガードの技術 審査基準(クライテリア)

	基礎技術力	達成度と表現力
段階 5	 ・スタイルは十分に統一されている。 ・身体や動作、手具の扱いの理解の度合いが高く、技術的に大変優れている。 ・身体や手具のポジションは統一されており、ミスはほとんどない。 ・動作や手具操作のタイミングは一致しており、ミスはほとんどない。 ・ショーの内容を適切に表現するためのトレーニングが十分されており、ほとんどの場合において大変優れた表現がなされている ・ミスのリカバリーが早く正確である。 	 ・表現方法はほとんどの場面で独創的で音楽が的確に理解されている。 ・身体の形や動き、手具の操作は、ほとんどの場面でかみ合っており、音楽的な違和感はほとんどない。 ・ショーを構成する音楽に対して、ほとんどの場面で適切な反映が行なわれており、不適切だと感じる場面はほとんどない。 ・視覚的に表現する様々な要素は豊富で多様性に富んでいる。 ・ほとんどの場面において表現は適切で違和感はほとんどない。 ・表現方法の完成度は非常に高く、ほとんどの場面でショー全体に良く貢献している。
段階 4	 スタイルは統一されているが、まれに徹底されてない部分がある。 身体や動作、手具の扱いの理解は十分で、技術的なレベルは高い。 身体や手具のポジションはそろっており、ミスは少ない。 動作や手具操作のタイミングはそろっており、ミスは少ない。 ショーの内容を適切に表現するためのトレーニングが十分されており、多くの場合で優れた表現がなされている。 ミスのリカバリー速度は普通であるが、正確である。 	 ・表現方法は多くの場面で、独創的で音楽に対する理解も全体的にはなされているが、まれに違和感がある。 ・身体の形や動き、手具の操作は、多くの場面でかみ合っているが、まれに違和感がある。 ・ショーを構成する音楽に対して、多くの場面で適切に反映されているが、まれに違和感がある。 ・視覚的に表現する様々な要素が複数あり多様である。 ・多くの場面で表現は適切であるがまれに違和感がある。 ・表現方法の完成度は高く多くの場面でショーに貢献しているがまれに違和感がある。
段階 3	 スタイルはほぼ統一されているが、不十分な時が多い。 ・身体や動作、手具の扱いを理解し演技しているが、十分でない場面がある。 ・身体や手具のポジションはそろっているが、ミスが多い。 ・動作や手具操作のタイミングはそろっているが、ミスが多い。 ・ショーの内容を適切に表現するためのトレーニングがされているが、十分でない場面が多い。 ・ミスのリカバリーが遅い。 	 ・表現方法にある程度、一貫性を感じる事は多く、音楽を理解されている部分も多いが、長続きしない。 ・身体の形や動き、手具の操作は、ある程度かみ合っており、音楽とも合っているが、不適切に感じる部分が多い。 ・ショーを構成する音楽に対して、ある程度適切に反映されているが、時折不適切に感じる。 ・視覚的に表現する様々な要素は限られており、あまり多様ではない。 ・ある程度、表現方法は適切であるが不適切に感じる場面もある。 ・表現方法の完成度はある程度高く、ショー全体への貢献もある程度見受けられる場面もあるが不足を感じる。
段階 2	 ・統一されたスタイルがあるが、不徹底である。 ・身体や動作のことを若干理解し演技しているようであるが、理解の度合いは浅い ・身体や手具のポジションが決められているようであるが、不徹底である。 ・動作や手具操作のタイミングがあまりそろっていない。 ・ミスを自覚しているがリカバリーしていない。 	 表現方法に時折、脈絡を感じる部分があるが不足している。音楽を理解している部分が少ない。 ・身体の形や動き、手具の操作が、あまり音楽とかみあってない。 ・視覚的に表現する様々な要素が不足している。
段 階 1	 ・カラーガードとしての統一されたスタイルが存在するようには見受けられない。 ・身体や動作のことを理解し演技しているようには感じられない。 ・身体や手具の持ち方、操作の仕方が全く統一されておらず演技をするのに適していない。 ・動作や手具操作の、タイミングが全くバラバラである。 ・ミスしている自覚がない。 	・表現方法に一貫性がなく、音楽を理解しているとは感じられない。 ・身体の形や動き、手具の操作が、かみ合っていない。 ・視覚的に表現する様々な要素があるように感じられない。

表彰規定

1. 表彰

★小学生の部★

- ①全出場団体に、金賞・銀賞・銅賞のいずれかを授与する。
- ②編成ごとに、金賞3:銀賞3:銅賞3の相対評価とし、銅賞該当団体の内、成績点が70点以上の場合は銀賞とする。
- ③編成ごとに、出演順に賞を発表する。

★中学生の部★

- ①全出場団体に、金賞・銀賞・銅賞のいずれかを授与する。
- ②編成ごとに、金賞3:銀賞3:銅賞3の相対評価とし、銅賞該当団体の内、成績点が70点以上の場合は銀賞とする。
- ③編成ごとに、出演順に賞を発表する。
- ④編成別最上位の団体に編成別最優秀賞を授与する。

★高等学校の部★

- ①全出場団体に金賞・銀賞・銅賞を授与する。
- ②編成ごとに、金賞3:銀賞3:銅賞3の相対評価とし、銅賞該当団体の内、成績点が90点以上の場合は銀賞とする。
- ③編成ごと、出演順に賞を発表する。
- ④編成別最上位の団体に編成別最優秀賞を授与する。
- ⑤成績点の最も高い団体をグランプリとし、賞状とグランプリ旗を授与する。
- (6)グランプリ団体及び編成別最優秀団体には特別賞を授与することができる。

★一般の部★

- ①全出場団体に金賞・銀賞・銅賞を授与する。
- ②編成ごとに金賞3:銀賞3:銅賞3の相対評価とし、銅賞該当団体の内、成績点が90点以上の場合は銀賞とする。
- ③編成ごと、出演順に賞を発表する。その後、編成ごとに金賞団体の順位を下位の団体から発表する。
- ④編成別最上位の団体に編成別最優秀賞を授与する。
- ⑤成績点の最も高い団体をグランプリとし、賞状とグランプリ旗を授与する。
- ⑥グランプリ団体及び編成別最優秀団体には特別賞を授与することができる。
- ⑦一般の部金賞団体が翌年の本大会に出場する場合は、<u>編成別</u>出演順後半に出演順をシードする。 その場合、金賞下位団体から演技し1位の団体が最後に演技する。一般の部2年連続グランプリ を受賞した特別演奏演技団体が、翌年の全国大会に出場する場合、<u>該当編成</u>シード枠の最後に演 奏演技する。

2. 同点処理

(1)編成別最優秀賞決定における同点処理

編成別最上位の成績点に同点が生じた場合は、以下の処理を行う。

- ① 当該団体間の編成別席次合計が最小の団体を編成別最優秀賞とする。
- ② 席次合計が同点の場合は、当該団体間で以下の決選投票を行い、編成別最優秀賞を選出する。
 - ア. 中学生の部は、全審査員の投票による多数決で選出する。
 - イ. 高等学校の部及び一般の部は
 - A:音楽と視覚の調和の審査員で1団体を選出。
 - B:演奏の調和・管楽器の技術・打楽器の技術の審査員で1団体を選出。
 - C: 演技の調和・演技の技術(一般の場合は、動きの技術、カラーガードの技術) の審査員で1団体を選出。
 - このA・B・Cの結果により多数決で選出。
- (2) 高等学校の部及び一般の部のグランプリ決定における同点処理

最上位の成績点に同点が生じた場合は、以下の処理を行う。

- ①当該団体間で以下の決選投票を行いグランプリを選出する。
 - A:音楽と視覚の調和の審査員で1団体を選出。
 - B:演奏の調和・管楽器の技術・打楽器の技術の審査員で1団体を選出。
 - C: 演技の調和・演技の技術(一般の場合は、動きの技術、カラーガードの技術)
 - の審査員で1団体を選出。
 - このA・B・Cの結果により多数決で選出。

3. その他

- (1) 大会終了後、各参加団体に渡す物は、自団体の審査員全員のコメントCD、審査用紙、及び参加編成の集計一覧表とする。
- (2) 参加編成集計一覧表は参加団体へ資料として配布する物で、一般に公開はしない。
- (3) 全部門の金・銀・銅及び高等学校の部・一般の部の成績点は、終了後に公開する。

注意事項

- 写真およびDVD撮影販売及び二次使用について
 - ・写真およびDVDの著作権は、一般社団法人日本マーチングバンド協会に帰属する。
 - ・写真およびDVDの撮影販売は、当協会指定業者が行う。
 - ・二次使用については、該当団体の承諾のもと使用することとする。
- 記録について
 - ・参加団体は、記録用として大会実行委員会が指定する座席において、写真・ビデオ3名(自団体のみ)撮影をすることができる。
- 傷害保険について
 - ・当協会にて、出演者・係員を対象に傷害保険に加入する。
 - ・補償内容は「大会当日の会場到着時から会場出発時まで」とする。会場までの移動や宿泊中の傷害保険については、各団体が任意でご加入下さい。
- 宿泊・弁当の斡旋について

〔宿泊〕 □斡 旋 日 2019年12月13日 (金)・14日 (土)・15日 (日)

□斡旋場所 希望条件に応じた宿泊個所を手配

ホテル名	
ホテルマロウドイン大宮	
フレンドシップハイツよしみ	
ロイヤルパインズホテル浦和	

上記地域の具体的な利用ホテル、料金、客室条件等に関しては参加団体用パンフレットに掲載(応援団も可)

〔弁当〕 □斡 旋 日 2019年12月14日 (土) 昼食・夕食/15日 (日) 昼食・夕食

※ご希望により12月13日(金)分や夕食も対応(練習会場等への配達も可能)

□代 金 <u>一食 1,000円のものを3種、800円のものを3種</u>用意

(いずれも飲物付、税込) ※団体のみ受付(応援団も可)

※詳しい内容は、参加団体用パンフレットに掲載

〔宿泊·斡旋旅行会社〕株式会社JTB 教育第二事業部

担当: 久下/市川 電話: 03-5909-8245 FAX: 03-5909-8298

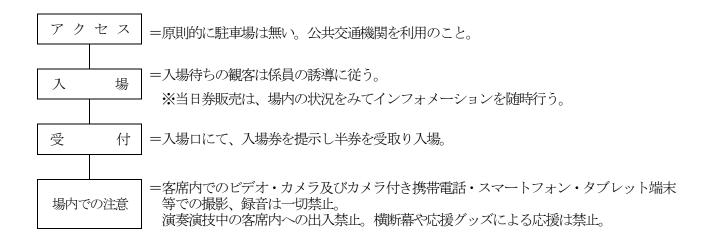
11月16日 (土) 「参加団体打ち合わせ会議」 時に受付窓口を開設致します。 各種お申込みの確認・変更等にご利用下さい。

入場券販売

■ 入場料金 指 定 席 ¥5,500(税込)※プログラム別売り 自 由 席 ¥3,850(税込)※プログラム別売り

- 一般販売 詳細が決定次第、当協会ホームページ (www.japan-mba.org) に掲載
- 参加団体への販売 参加団体に案内

一般客へのインフォメーション 観覧者・関係各位に徹底



さいたまスーパーアリーナについて

■ 会場までの交通機関 JR京浜東北線・高崎線・宇都宮線「さいたま新都心」駅 西口下車徒歩3分



緊急対策

1. 目的

マーチングバンド全国大会における会場管理の安全を期し、以て不測の事態による人的災害を最小限に軽減するために以下の緊急時対策をとる。

2. 予防体制

- ①各担当者は、それぞれのポジション内の整理については、特に注意し、不必要なものは置かないよう にする。
- ②入場開始1時間前に、役員及び係員全員で、消防器所在などの会場内事情を確認するとともに不審物、 危険物の有無の点検を徹底的に行う。多少でも疑わしきものがあった場合には、大会本部に各担当責 任者を通じ連絡すること。
- ③開会30分前に再度確認する。
- 3. 緊急事態発生の場合
 - ①火災発生の場合
 - ア. 火災発生の発見者は、直ちに初期消火体制をとるとともに、臨席の消防官・警察官に通報、また、 各担当責任者に連絡すること。
 - イ. 各担当責任者は、大会本部に通報し、大会本部は消防署に通報する。
 - ウ. 臨席の消防官または警察官の指示は、各担当者が受け本部に連絡する。
 - エ. 初期消火については、会場内所定の消火器の操作要領を、各担当責任者が関係係員に確認しておくこと。
 - オ. 来場者の避難誘導については、大会本部からの連絡(放送)により、来場者を混乱させることなく、あらかじめ定めた通路を使って誘導を行う。

②地震の場合

ア. 来場者に対して、まず冷静に対処することを放送・ハンドマイクなどで呼びかけ、本部の状況判断を待ち、避難を要する場合は各出入口を使って館外に誘導を行う。

誘導にあたっては、各担当責任者、臨席の消防官・警察官の指示を受ける。

- ③けが人・病人発生の場合
 - ア. けが人・病人が発生した場合には、各担当者を通じて大会本部に通報し、その指示を受け、救護係員の到着を待つこと。
 - イ. 各担当者は本部に通報する。
 - ウ. 大会本部は、救護班に待機場所を通報し、必要がある場合は、大会本部より救急車の出動を要請する。
 - エ. 救護所は、医務室に設置する。